

タイ王国
労災リハビリテーションセンター
エバリュエーション調査団報告書

昭和63年10月

国際協力事業団
社会開発協力部

JICA LIBRARY



1075397(8)

19309

タイ王国

労災リハビリテーションセンター
エバリュエーション調査団報告書

昭和63年10月

国際協力事業団
社会開発協力部

国際協力事業団

19389

序 文

タイ王国では工業化の進展に伴い、製造業を中心に労働災害も増加の一途をたどっている。こうした状況の下で労働災害防止対策と並んで被災労働者の早期職業復帰を促進するための対策が技能労働者の維持確保および労働者福祉向上の観点から求められ、これを受けてタイ王国政府は労災リハビリテーションセンターの設立を計画し、1982年わが国に対し無償資金協力および技術協力を要請した。

わが国は数次にわたり調査団を現地に派遣し、タイ側関係者と協議を重ねた結果、1983年に10.9億円をもって無償資金協力によるセンターを設立することに合意するとともに、プロジェクト方式技術協力に係る討議議事録(R/D)も1984年2月23日に署名された。

1985年4月のセンター開所とともに順調に技術協力活動が展開され、現在7名の専門家が活動中であるが、近年入所生のほとんどが医療リハビリテーションを必要としている状況から同分野の強化が課題となってきた。今般、本プロジェクトの協力期間満了を1989年2月に控え、プロジェクトの協力実績を評価し、継続協力の要否についてタイ側関係者と協議するため、労働省総務審議官 佐藤勝美氏を団長とするエバリュエーション調査団を現地に派遣した。

本報告書は、同調査団の調査内容および評価結果をとりまとめたものである。

最後に、本調査団の派遣に御協力いただいた外務省、労働省、労働福祉事業団ならびに現地での調査活動に御支援を賜った在タイ日本国大使館および専門家チームの方々に深甚なる謝意を表する次第である。

1988年10月

国際協力事業団

理事 玉 光 弘 明



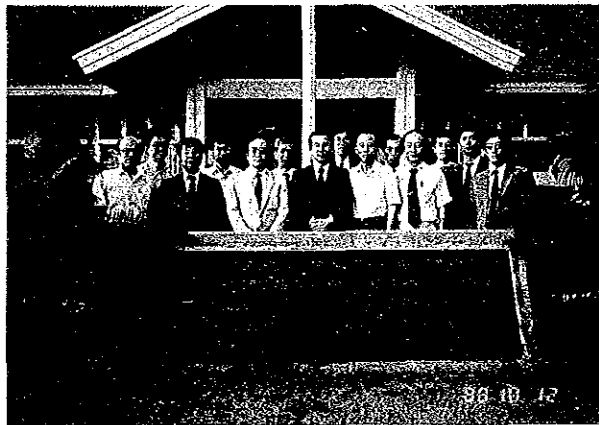
DTEC 表敬

下段中央が Wanchai 局長

IRC にて

左より

北島調整員、樋浦専門家、山口団員、
 村瀬専門家、真柄団員、倉橋専門家、
 佐藤団長、那須団員、中島団員、
 伊藤専門家、佐久間リーダー、石黒専門家、
 小方団員、小泉団員



スクリーニング委員会による
 ミニッツ案の承認

ミニッツ署名

(Chalong 労働局次長および佐藤団長)



目 次

序 文

写 真

目 次

1. エバリュエーション調査団の派遣	1
1-1 派遣目的	1
1-2 調査団の構成	1
1-3 調査日程	1
1-4 主要面談者	2
1-5 調査基本方針および評価方法・項目	3
2. 全体評価総括	6
3. ミニッツ	8
4. 評価調査結果	14
4-1 職業評価分野	14
4-2 職業指導分野	14
4-3 職業準備分野	15
4-4 職業訓練分野	16
4-5 医療リハビリテーション分野	27
5. 訓練計画基本構想評価	35
6. カウンターパートに対する技術移転達成状況	45
6-1 カウンターパートの配置状況	45
6-2 カウンターパートの育成状況	48
6-3 技術移転対象項目別目標達成状況	54
6-4 教科書・教材整備状況	59
6-5 機材活用・維持管理状況	62
6-6 カウンターパートの技術移転進捗状況等調査結果および評価	72

7. 日本側投入実績	80
7-1 専門家派遣	80
7-2 研修員受け入れ	82
7-3 機材供与	82
7-4 ローカルコスト負担	83
7-5 調査団派遣	84
8. タイ側によるエバリュエーション	85
《付属資料》	167

1. エバリュエーション調査団の派遣

1-1 派遣目的

本プロジェクトは、1989年2月にR/D協力期間が終了する予定であるが、タイ側関係機関および専門家チームとの協議を通じて、技術協力活動の進捗状況および実績を把握することにより、プロジェクトの完成度、管理運営の適正度および計画の妥当性について評価を行うとともに、タイ側への引き渡し可能な分野および継続協力の必要な分野について見極めを行うことを目的として、本調査団を派遣するものである。

1-2 調査団の構成

- | | |
|-------------------------|-----------------------------|
| (1) 佐藤 勝美 (総括) | 労働省総務審議官 |
| (2) 小泉 哲雄 (職業指導) | 労働省職業安定局障害者雇用対策課課長補佐 |
| (3) 山口 芳幸 (職業訓練) | 労働省職業能力開発局海外協力課海外訓練協力官 |
| (4) 小方 靖 (訓練計画) | 労働省大臣官房国際労働課協力交流第二係長 |
| (5) 中島 昭夫 (医療リハビリテーション) | 労働福祉事業団中部労災病院リハビリテーション診療科部長 |
| (6) 真柄 彰 (義肢装具) | 労働福祉事業団燕労災病院理学診療科部長 |
| (7) 那須 隆一 (協力計画) | 国際協力事業団社会開発協力部海外センター課職員 |

1-3 調査日程

日順	月日	曜日	行 程	調 査 内 容
1	10/6	木	成田 ^{TG-641} バンコク IMPERIAL HOTEL	専門家チームと日程等打合せ
2	7	金	JICA事務所・日本大使館・国際労働機関(ILO)・技術経済協力局(DTEC)・労災リハビリテーションセンター(IRC)	JICA事務所・日本大使館・ILO・DTEC表敬およびIRC視察、調査方針に係る専門家との打合せ
3	8	土	IMPERIAL HOTEL	プロジェクト評価に係る専門家との個別協議(団長、小方・那須団員↔佐久間リーダー、北島調整員、小泉・山口団員↔石黒・伊藤・倉橋専門家、中島・真柄団員↔樋浦・村瀬専門家)
4	9	日	IMPERIAL HOTEL	資料整理および団内打合せ
5	10	月	BANGKOK PALACE HOTEL	内務省次官補・労働局(DOL)局長表敬および労災補償基金部(WCF)部長との打合せ
6	11	火	IRC	DOL・WCF・IRCスタッフ・専門家チームとの全体会議およびプロジェクト評価に係る専門家との個別協議
7	12	水	IRC	WCF・IRCスタッフよりプロジェクトの評価につき聴取およびミニッツ案の協議

日順	月日	曜日	行 程	調 査 内 容
8	13	木	DOL	スクリーニング委員会によるミニッツ案の承認およびミニッツ最終案作成・タイプ作業 JICA事務所へ報告およびミニッツ署名交換
9	14	金	JICA事務所・IMPERIAL HOTEL	
10	15	土	バンコク ^{TG-610} 成田	

1-4 主要面談者

氏 名	職 位
〈内務省〉	
Mr. Aree Wongse-araya	内務省次官補
Mr. Siri Keiwalinsrit	内務省労働局局長
Mr. Chalong Sawetavong	内務省労働局次長
Mr. Rong Charoensiri	内務省労働局次長
Ms. Yanee Prasertpan	内務省労働局労災補償基金部部长
Ms. Suvaluck Krajangvongs	内務省労働局国際労働課課長補佐
〈労災リハビリテーションセンター〉	
Ms. Doungkamol Changrien	労災リハビリテーションセンター所長
Ms. Kanchana Noiprasert	労災リハビリテーションセンター管理課課長
Ms. Jiraporn Kesornsucharit	労災リハビリテーションセンター調査研究企画課長
Ms. Pannee Rumroeythum	労災リハビリテーションセンター職業評価・指導課長
Mr. Surachai Darbavasu	労災リハビリテーションセンター職業訓練課長
Mr. Damrongsak Prajongpun	労災リハビリテーションセンター職業準備課長
Mr. Suradij Waleeitthikul	労災リハビリテーションセンター医療リハビリテーション課長
〈技術経済協力局〉	
Mr. Wanchai Sirirattna	技術経済協力局局長
Mr. Vudhisit Viryasiri	技術経済協力局日本担当企画官
〈日本大使館〉	
木内 昭胤	大使
井原 勝介	一等書記官
〈国際労働機関〉	
中村 正	アジア・太平洋地域事務所所長
〈JICA事務所〉	
斉藤 勉	所長
師岡 俊夫	職員
吉田 丘	職員
〈専門家チーム〉	
佐久間 昭明	チーフアドバイザー
北島 隆雄	調整員
石黒 豊	職業評価専門家
伊藤 豊	職業準備専門家
倉橋 静雄	職業訓練専門家
樋浦 功	作業療法専門家
村瀬 正男	理学療法専門家

1-5 調査基本方針および評価方法・項目

1-5-1 基本方針

- (1) 本エバリュエーション調査団は、1-5-3に記載する評価項目に基づき所要の調査を行うこととする。各種評価項目の中でもタイ人インストラクターに対する技術移転達成度に重点を置いて調査を行う。
- (2) 技術移転達成度の評価基準は、タイ側へ引き渡しすることができるか否かの観点から次の3段階評価とし、カウンターパート1人1人について行った評価結果を基にして各分野毎の総括評価を行う。
 - A：自立できる。
 - B：自立するためにはもう少し専門家の指導をうけることが必要である。
 - C：専門家が相当長期間にわたり指導を行わなければ自立できないと思われる。
- (3) 他の調査項目については段階評価は行わず、項目別に現況および問題点を資料に基づき分析するとともに、関係者からのヒアリング結果を記述式で評価を行う。ただし機材活用・維持管理状況については3段階評価を行うとともに、C段階(活用されていない、または故障・破損している等)の機材についてはその内容および原因を記載する。
- (4) エバリュエーションの結果を基にタイ側と協議を行い、必要と認められる分野につき2年間程度延長することとし、ミニッツにて確認する。

1-5-2 評価方法

- (1) 日本人専門家による技術移転達成度記載資料の分析
- (2) タイ人関係者（プロジェクト責任者・行政機関等）との協議およびヒアリング
- (3) タイ人インストラクターとの協議およびヒアリング
- (4) 日本人専門家との協議およびヒアリング
- (5) 日本大使館および JICA タイ事務所関係者との面接
- (6) 施設管理運営状況、訓練機材の稼働状況、訓練実施状況、工具・備品・消耗品等の管理状況の視察

1-5-3 評価項目および評価内容

評価項目	評価内容
<p>1. 訓練コース開設状況</p> <p>(1) 各科別実施状況 (実施回数・応募者数・入校生数・募集選考方法・卒業生数・通学方法etc.)</p> <p>(2) 訓練計画基本構想の適正度把握 (訓練目標・対象者・受講資格・修了資格・定員・訓練期間・訓練時間・訓練方式etc.)</p> <p>(3) 訓練ニーズの把握およびカリキュラムの見直し状況</p>	<p>当初計画と実績の比較を資料に基づき分析し、計画の妥当性、実施方法の適正度および問題点等について把握し、必要があれば今後の見直しを行う。</p> <p>プロジェクト形成時に設定した基本構想の適正度について各項目別に実状を把握し、問題点がないか調査するとともに必要があれば今後の修正計画を検討する。資料分析およびヒアリングによる。</p> <p>資料分析およびヒアリングにより、ニーズ把握方法および訓練内容見直しの適正度を調査する。</p>
<p>2. 技術移転実績</p> <p>(1) カウンターパート配置状況</p> <p>(2) カウンターパート育成状況</p> <p>(3) 技術移転対象項目別目標達成度および進め方の適正度</p> <p>(4) 機材活用・維持管理状況</p> <p>(5) 教材・教科書作成状況</p>	<p>当初計画と実績を比較し、問題点およびその原因を把握する。特に離職の場合、その原因および対応策を調査する。資料分析およびヒアリングによる。</p> <p>各科別およびカウンターパート別に現時点とR/D終了時点での評価を客観的評価項目により、3段階(A・B・C)程度に分けて実施する。これにより自立能力を判断する。資料分析およびヒアリングによる。</p> <p>技術移転対象項目を列記し、計画と達成度を比較する。当初設定目標の妥当性、技術移転の進め方、期間・時間等の適否について調査し、大幅な遅れがある場合その原因と対応策を把握する。資料分析およびヒアリングによる。</p> <p>供与済みの全主要機材を列記し、活用および維持管理の両面について3段階(A・B・C)評価を行い問題がある場合今後の対策を検討する。</p> <p>計画と実績を比較し問題点およびその原因を把握する。また作成作業についてはどのように進められてきたか調査することにより、技術移転計画の目標達成度を把握する。資料分析およびヒアリングによる。</p>

評 価 項 目	評 価 内 容
<p>3. 日本側の投入実績</p> <p>(1) 専門家派遣</p> <p>(2) 研修員受入</p> <p>(3) 機材供与</p> <p>(4) ローカルコスト負担</p> <p>(5) 国内支援体制</p> <p>(6) 調査団派遣</p> <p>(7) その他</p>	<p>計画と実績を比較し、問題点およびその原因を把握する。派遣時期および期間の適正度を調査する。さらに今後の派遣計画を併せて検討する。</p> <p>計画と実績を比較し、問題点およびその原因を把握する。研修内容、期間、進め方等についてカウンターパートよりヒアリングを行う。</p> <p>計画と実績を比較し、問題点およびその原因を把握する。現地調達および引き取り・検取上の問題点を併せて調査する。年次別供与計画および予算額の適否について調査する。</p> <p>計画と実績を比較し、問題点およびその原因を把握する。</p> <p>専門家からのヒアリング調査により、JICA本部をはじめとする日本側の支援体制に問題はなかったか実態を把握する。</p> <p>計画と実績に問題はなかったか、専門家からのヒアリングを中心にJICA本部に対する要望等を把握する。</p> <p>JICA事務所がないため事務連絡交信上の問題がないか専門家からのヒアリングにより実状を把握する。その他専門家の福利厚生面等の問題点を聴取する。</p>
<p>4. 本プロジェクトに対する一般的評価</p> <p>(1) 卒業生の就職状況</p> <p>(2) 職業訓練実施機関の評価</p> <p>(3) 訓練生からの評価</p> <p>(4) 上位行政機関の評価</p>	<p>卒業生の就職率および就職先等につき現状を把握する。</p> <p>本センターの位置づけおよび一般的評価等についてヒアリングを行い、現況を分析する。</p> <p>訓練内容およびレベル等についてどのようにとらえているかヒアリングを行い問題点および今後の対応策を検討する。</p> <p>本センターの設置目的に沿って事業が行われているか、上位行政機関の支援は十分であったか等についてヒアリング調査を行う。</p>

2. 全体評価総括

一連の協議の結果、総括的な評価結果としては以下のとおりである。

- (1) 職業評価および職業指導分野については、技術移転はほぼ完了したと考えられるので、この分野の協力は R/D 期間終了時をもって終了する。
- (2) 職業準備、職業訓練および医療リハビリテーション分野については、ある程度の技術移転が終了し相当程度の成果が上がっているものの、実際にプロジェクトを運営していく中でタイ側から様々な要請が上がってきており、これらに対する技術移転は R/D 期間終了時までには完了するのは困難なので継続協力が必要と考えられる。
- (3) 協力期間の延長については、技術移転を効果的かつ円滑に行うため、1991年3月31日までの2年間強とする。

各分野ごとの協議および評価結果は以下のとおりである。

- (1) 職業評価および職業指導分野については、技術移転すべき初期段階の技術は R/D 期間終了時までには移転完了すると考えられるので、この分野は今後タイ側で応用的に発展させることとして、この分野の協力は R/D 期間終了時をもって終了する。
- (2) 職業準備については、次にふれる職業訓練分野と密接に関係するものであり、職業訓練分野の技術移転をより効果的に行うとともに全体の運営を円滑に実施するため当分野について協力の延長を行う。

このため長期専門家を1名派遣することとする。この専門家は職業準備と職業訓練の両分野を所掌するものとし、具体的にはカリキュラムを障害者向けに適合させたり、作業補助具をアレンジしたりする幅広い技術的分野の専門家とする。

- (3) 職業訓練については、タイ側の行った調査結果を検討し、さらに十分な協議を行った末、小型エンジンと冷凍空調について次のとおりの結論を得た。

イ. 小型エンジンについては、職業準備および職業訓練コースの再編後から軽度の障害者を対象に訓練を行っているところであるが、相当の成果を上げるとともに当コースの希望者も多いため、当コースの拡充に向け協力を延長する。

具体的には、エンジンの電子制御やオイルプレッシャー関係の短期専門家を派遣することとする。

機材供与については追加供与の必要があるが、作業場のスペースに問題があるので、日本人専門家の意見を踏まえたうえでタイ側にてレイアウトの変更等スペース確保を検討する必要がある。

カウンターパートの日本研修については、要請を検討した上で対応する。

ロ. 冷凍空調については、タイ側の調査によれば障害者の訓練としても妥当であることと

もに市場のニーズも高いことから、現在実施中の電気の1分野として対応することとし、具体的には短期専門家の派遣、機材供与、カウンターパートの日本研修を行うこととする。

(4) 医療リハビリテーションについては、入所者のほとんどが医療リハビリテーションを必要としている状況にあり、これまでも相当の協力を行ってきたところであるが、当該分野の技術移転をより効果的かつ充実したものにするため、次のとおり協力の延長を行うこととする。

イ. 以下の分野について継続して専門家の派遣を行う。

(イ) 義肢装具：長期専門家による対応を検討中であるが、長期が無理な場合は短期で対応する。

(ロ) 作業療法 (OT)：長期専門家にて対応する。

(ハ) 理学療法 (PT)：1ヵ月程度の短期専門家にて対応する。

ロ. カウンターパートの日本研修については、従来程度（年2人程度）の人数で行う。

ハ. 義肢装具のワークショップについては、従来どおり年1回程度開催する。

ニ. 機材供与については、スペアパーツ、消耗品等を中心に行う。

(5) 専門家の派遣期間については、口頭でタイ側に説明したに止めたが、タイ側より短期専門家の派遣については1回限りで終わるのではなく、同じ専門家を数回にわたり派遣してほしい旨要請があった。

(6) カウンターパートの日本研修については、JICAが行う全プロジェクトのカウンターパートの年間日本研修員数の枠を考慮し、さらに個々の要請を検討した上で対処することとする。

(7) なお、短期専門家の派遣およびカウンターパートの日本研修については、日本人専門家グループとタイ側で調整を行った上、昭和64年1月開催予定のリーダー会議の際に佐久間リーダーが日本へ持ち帰って検討することとする。

(8) 機材供与については、スペアパーツ、消耗品等を中心に供与するが、具体的には要請の内容を検討した上で対処することとする。

(9) リーダーおよび調整員については、職務の内容が各々異なることからタイ側より両者とも期間延長の要請があり、調査団は前向きに検討する旨回答した。

THE MINUTES OF DISCUSSIONS BETWEEN THE JAPANESE EVALUATION TEAM AND
THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF THE KINGDOM OF THAILAND
ON THE INDUSTRIAL REHABILITATION CENTER PROJECT

The Japanese Evaluation Team (the Team), organized by the Japan International Cooperation Agency and headed by Mr. Katsumi Sato, visited the Kingdom of Thailand, from October 6 to 15, 1988, for the purpose of evaluating the achievements of technical cooperation for the Industrial Rehabilitation Center Project (the Project), and for discussing the issues involved in implementation of the Project with the concerned authorities of the Government of the Kingdom of Thailand.

The Team gave a brief statement about the results of a series of evaluating works and expressed high appreciation of the great efforts made by the Department of Labour, Ministry of Interior of the Kingdom of Thailand in implementation of the Project.

As a result of the discussions, both sides agreed to the following points for the purpose of smooth and complete implementation of technical transfer to the Project.

KS

Chaly

1. The term of technical cooperation in the following programs will be extended until March 31, 1991:

- 1-1 Work Preparation Program
- 1-2 Vocational Training Program
- 1-3 Medical Rehabilitation Program

However, technical cooperation in the Evaluation Program and the Vocational Guidance Program will end on February 22, 1989.

2. In this connection, some experts in the following fields will be dispatched to support technical transfer to the Thai counterpart personnel.

- 2-1 Practical Technique of Vocational Rehabilitation concerning 1-1 and 1-2 mentioned above
- 2-2 Vocational Training on Small Engine Course
- 2-3 Vocational Training on Refrigeration and Air Conditioning in Electric Course
- 2-4 Occupational Therapy
- 2-5 Physical Therapy
- 2-6 Fabrication of Prosthesis and Orthosis

3. Appropriate number of the Thai counterpart personnel will be accepted for training in Japan in the Japanese fiscal years 1989 and 1990.

4. The equipment mainly in the fields mentioned in item 2 will be donated in the Japanese fiscal years 1989 and 1990.

R-8

Chaly

5. The Thai authorities concerned will give continuous budgetary support for smooth implementation of the Project and maintain the donated equipment in good condition.

As a result of the evaluation and discussions, both sides agreed to recommend to their respective governments the matters referred to in the foregoing points.

This has been formulated to comply with the terms of technical cooperation based on Article IX of the Record of Discussions signed on February 23, 1984.

Bangkok, October 14, 1988

Katsumi Sato

MR. KATSUMI SATO
Leader
Japanese Evaluation Team
Japan International
Cooperation Agency (JICA)

Chalong Sawetavong

MR. CHALONG SAWETAVONG
Deputy Director-General
Department of Labour
Ministry of Interior
The Kingdom of Thailand

PARTICIPANTS ON THE THAI SIDE:

Mr. Siri	KEIWALINSRIT	Director-General, DOL
Mr. Rong	CHAROENSIRI	Deputy Director-General, DOL
Ms. Yanee	PRASERTPAN	Director of the WCF, DOL
Mr. Vudhisit	VIRYASIRI	Representative from DTEC
Ms. Doungkamol	CHANGRIEN	Director of IRC, DOL
Ms. Suvaluck	KRAJANGVONGS	Senior Labour Officer International Labour Affairs, DOL
Ms. Jiraporn	KESORNSUCHARIT	Chief of Research Planning & Studies Section IRC, DOL
Ms. Panee	RUMROEYTHUM	Chief of Vocational Evaluation & Guidance Section IRC, DOL
Ms. Kanchana	NOIPRASERT	Chief of General Administration Section IRC, DOL
Mr. Suradej	WALEEITHIKUL	Chief of Medical Rehabilitation Section IRC, DOL
Mr. Surachai	DARBAVASU	Chief of Vocational Training Section IRC, DOL
Mr. Damrongsak	PRAJONGPUN	Chief of Work Preparation Section IRC, DOL

K.S.

Chaleng

PARTICIPANTS ON THE JAPANESE SIDE:

Mission

Mr. Katsumi (Leader)	SATO	Assistant Minister for International Labour Affairs Ministry of Labour
Mr. Tetsuo	KOIZUMI	Deputy Director of Employment Measures for Disabled Division Employment Security Bureau Ministry of Labour
Mr. Yoshiyuki	YAMAGUCHI	Vocational Training Specialist in charge of Technical Cooperation Human Resources Development Bureau Ministry of Labour
Mr. Yasushi	OGATA	Chief of Second Technical Cooperation and Exchange Section International Labour Affairs Division Ministry of Labour
Mr. Akio	NAKAJIMA	Director Division of Rehabilitation Medicine Chubu Rosai Hospital Labour Welfare Corporation
Mr Akira	MAGARA	Director Division of Rehabilitation Medicine Tsubame Rosai Hospital Labour Welfare Corporation
Mr. Ryuichi	NASU	Staff Overseas Centers Division Social Development Cooperation Department Japan International Cooperation Agency (JICA)

KS

Chase

Embassy of Japan

Mr. Katsusuke IHARA First Secretary

Japanese Expert

Mr. Teruaki SAKUMA Chief Advisor

Mr. Takao KITAJIMA Coordinator

Mr. Yutaka ISHIGURO Vocational Guidance

Mr. Yutaka ITO Vocational Preparation

Mr. Shizuo KURAHASHI Vocational Training

Mr. Isao HIURA Occupational Therapy

Mr. Masao MURASE Physical Therapy

KS

Oral

4. 評価調査結果

4-1 職業評価分野

4-1-1 実施状況

日本人長期専門家の助言・指導により、職業評価の重要性についての理解も進み、基本的な理念、仕組みの定着が図られ、基礎的な体系の技術移転は終了した。

また、機材の活用・維持管理などについても特に問題はないと考えられる。

4-1-2 評価

以上のとおり、職業評価の分野については、基本的な技術移転は当初 R/D 協力期間をもって終了するものと考えられる。

なお、前年度巡回指導調査団の報告において、職業評価結果の活用が不十分なこと、およびタイにおいて応用できる評価技法の開発が課題となっていることの2点が指摘されていたところである。

この点については、職業評価結果記録表等を IRC の各部門で共通して理解・利用が可能な様式に統一するための努力が成果をあげつつあること、また、タイ国内で使用されている心理テストの試行実施などが行われていること等タイ側カウンターパートの積極的な試みにより解決の方向に向かっていると考えられる。

また、現在日本人専門家により、これまでの経緯をふまえ、広く職業リハビリテーション全般を対象とした職業リハビリテーションハンドブックおよび参考資料集も作成されつつあり、たとえば、ワークサンプル法のタイ国版の開発など応用的な課題についても、タイ側カウンターパートが基本的知識やこれまでの経験をもとに、技術移転の成果を活用しつつ対応していくことが可能であるものと評価できる。

4-2 職業指導分野

4-2-1 実施状況

オリエンテーションからフォローアップまでの職業指導の基本的システムが設定されており、その意義、役割、具体的実施方法についても基本的な知識がタイ側へ技術移転されている。

4-2-2 評価

職業指導の分野については、他の分野以上に言語、生活習慣、社会体制などの相違が技術移転にとって大きな障害となりやすい分野であるにもかかわらず、双方の努力によりその基

礎が整備されたとと言える。

ただ、前年度巡回指導調査団報告にも指摘されているとおり、職業指導分野は、本来職業リハビリテーション課程をコーディネートすることまで含むものであり、この意味においては現状では未だ不十分な面がないとはいえない。

しかしながら、職業指導はその性格上職業紹介体制の整備などを含めたタイ側の全体的な社会的条件に対応して発展していくべきものであり、総合的な観点に立って長期的な展望のもとにその充実を図っていくべきである。

このため、基本的技術移転が終了したと考えられる職業評価の分野と併せて、この分野についても今後のプロジェクトの進展に応じてなんらかの形で長期的にタイ側に対して助言を行える体制を考えることが望まれる。

4-3 職業準備分野

4-3-1 実施状況

職業準備分野については、昭和62年2月から、職業訓練分野との連携を強め、原則として両分野の職種を相互開放し、弾力的に調整できるようなシステムを導入している。

この結果、個々の入所者のニーズにより適切に対応することが可能となり、入所生の増加にも大きく貢献したものと考えられる。

また、機材、教材などについても適切な技術移転がなされている。

4-3-2 評価

以上のとおり、新しいシステムはほぼ順調に運営されており、職業準備分野における技術移転はスムーズに行われてきたものと考えられる。

しかしながら、前年度巡回指導調査団報告書にも指摘されているとおり、この新しいシステムが有効に運営されていくためには、訓練コース、準備コースのどちらが個々の入所者のニーズに沿うものであるかの見極めが重要である。この見極めが不適切に行われ、安易に職業訓練コースに入所者が流れ込むようなことになれば、主として障害の受容、不安の除去、労働耐性および作業能力の向上という職業準備分野本来の役割が軽視されるおそれがある。これは、他の障害者と比較して職業準備分野の果たすべき役割が大きいと考えられる労災被災者を対象とする職業リハビリテーション施設としてのIRCの存在意義にもかかわる問題である。

したがって、職業準備分野の運営に当たっては、この点に留意し、職業評価・職業指導の両分野および医療リハビリテーション分野との密接な連絡体制を維持し、個々の入所生のニーズを正確に把握した上で、職業準備プログラムの適切な運営管理を行い、入所生1人1人

のニーズに見合った内容が特に必要であると思われる。この点については職業訓練分野についても同様のきめ細かな配慮が必要であると考えられる。

また、医療措置が不十分なまま入所する者が多いことも関連して、職業準備・職業訓練両分野においては、医療リハビリテーション分野との協力のもとに各種能力障害を除去するための自助具開発を行うことが実際的に重要な課題となっている。

以上の点につき日本側より引きつづき指導・助言等の協力を行うことが望ましいものと考えられる。

4-4 職業訓練分野

4-4-1 経緯

1984年2月23日に締結されたR/Dにおいては、第1表に示した職業リハビリテーションプログラムにより、家電修理コースおよび洋裁コースの2コースが職業訓練分野として実施されていた。

第1表 R/Dに定められた各プログラム

リハビリテーションプログラム (プログラム・コース)	期間	定員	プログラムに入るための資格
職業リハビリテーションプログラム	—	—	
評価プログラム	—	—	リファーマル委員会の推薦
職業準備プログラム 機械コース 組立コース 木工コース 金工コース 事務コース			a) 原則として、病院において医療リハビリテーションを終えていること b) 日常生活において身辺処理のできること c) 原職復帰あるいは自営業につける見込みの十分あること d) 伝染性もしくは精神的疾患を有さぬこと
職業訓練プログラム			
家電修理コース	約1カ年	20人	職業準備プログラムに入るための資格の上に、中卒以上の教育を受けた者が望ましい
洋裁コース	約1カ年	10人	職業準備プログラムに入るための資格と同じ
職業指導プログラム	—	—	職業準備あるいは職業訓練プログラム的一方を修了し、職に就ける見込みの十分にある者
医学的リハビリテーションプログラム	(3ヵ月)	(10人)	a) 職業準備プログラムに入るための資格および b) 現在の肉体的条件を向上あるいは保つために機能回復訓練を受ける必要のあること

注：医学的リハビリテーションは、原則として、職業リハビリテーションを受けている者に対し、実施される。

入所生は、医療リハビリテーションを経て、あるいは継続しながら職業評価の後、4ヵ月の職業準備プログラム(5コース)または上記2コースの職業訓練プログラムを選択することになっていた。しかしながら多くの入所生は4ヵ月の職業準備プログラム終了後、社会復帰することとなっていたにもかかわらず、技能・技術の習得の面からみて4ヵ月の訓練のみでは不十分であり、期間延長の要望が訓練生、カウンターパート、およびタイ政府から提起

されていた。

これらの要望を踏まえ、IRC 派遣日本人専門家チームは、従来の職業準備プログラムおよび職業訓練プログラムを『Vocational (Skill) Training Program』(第2表)に修正し、タイ側の合意を得て1987年2月より順次実施に移され、約1年間の試行後、1988年1月より本格的に実施されている。

第2表 再編後のプログラム

Work Preparation		Vocational Training	
Courses	Training duration (Months)	Courses	Training duration (Months)
1. Machine work Course	4	1. Machine Course	10
2. Metal work Course	4	2. Sheet metal & painting Course	5
3. Wood work Course	4	3. Welding Course	6
④. Assembly work Course	4	4. Furniture Course	9
5. Clerical work Course	4	5. Wood craft Course	6
⑥. Handicraft Course	4	6. Small Engine Course	9
		7. Clerical work Course	4
		8. Typing Course	3
		9. Light printing Course	3
		⑩. Electronics Course	12
		⑪. Electric Course	6
		⑫. Dress-making Course	12
		⑬. Sewing Course	3

注：○印 倉橋専門家担当，無印 伊藤専門家担当

このことから明らかなように、1987年2月を境として従来の区分による職業準備と職業訓練は必ずしも明確でなく、また、日本人専門家の業務分担も両者が混合したものとなっている。さらに職業準備および職業訓練の両分野の業務内容も非常に似かよったものであり、強いて言えば職業訓練Ⅰ(職業準備)と職業訓練Ⅱ(本来の職業訓練)と呼んだ方が現在IRCで行われている業務によりふさわしいものと思われる。

ついては、以下従来から職業訓練分野において専門家を派遣してきた電気・電子、洋裁および小型エンジンについて触れることとする。

4-4-2 訓練コース実施状況

(1) 電気・電子および洋裁

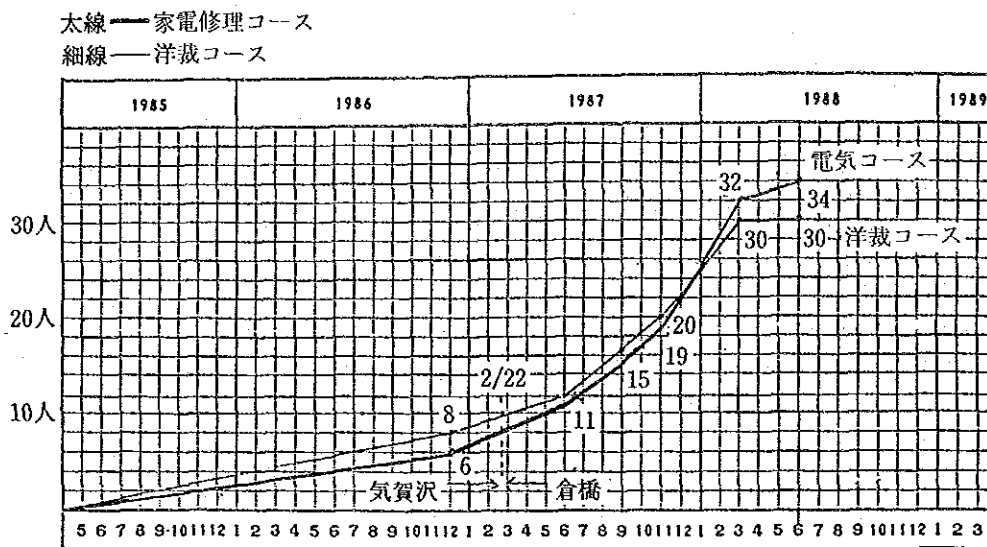
1) 技術移転の進捗状況

本分野については、IRC 発足以来気賀沢専門家(1984年10月3日～1987年3月2日)および倉橋専門家(1987年2月20日～)が長期専門家として派遣され、業務を担当してきたが、洋裁の分野については辰口短期専門家が延べ5回派遣されている。

技術移転の進捗状況についてみると、両分野とも非常に順調に進行しており特に指摘すべき問題点はない。しかし、現在のタイ国における住宅建設ブームにより、冷凍・空調修理関係コースの要望が強かった(詳細後述)。洋裁分野に関しては、完全に技術移転が終了している。

なお、両分野の修了生の状況は第3表のとおりである。

第3表 職業訓練修了生統計(累計)



2) タイ側投入状況

現在 IRC の職業訓練課の組織は、第1図で示すとおりであり、それに対応するカウンターパート名は第2図に掲げた。

各カウンターパートの質も概ね高く、特に電子担当者は、日本人専門家の助力なしで、電子プリント配線を完全にマスターしている。洋裁科においても何ら問題はなく、日本側からの短期専門家の追加派遣の必要性も認められない。

日本で研修を受けたカウンターパートは3名いるが、うち1名は NISD (National Institute for Skill Development; 内務省労働局中央職業訓練センター わが国の大規模職業訓練センターとほぼ同様) に転入したものの、他の2名は IRC で活動中である。

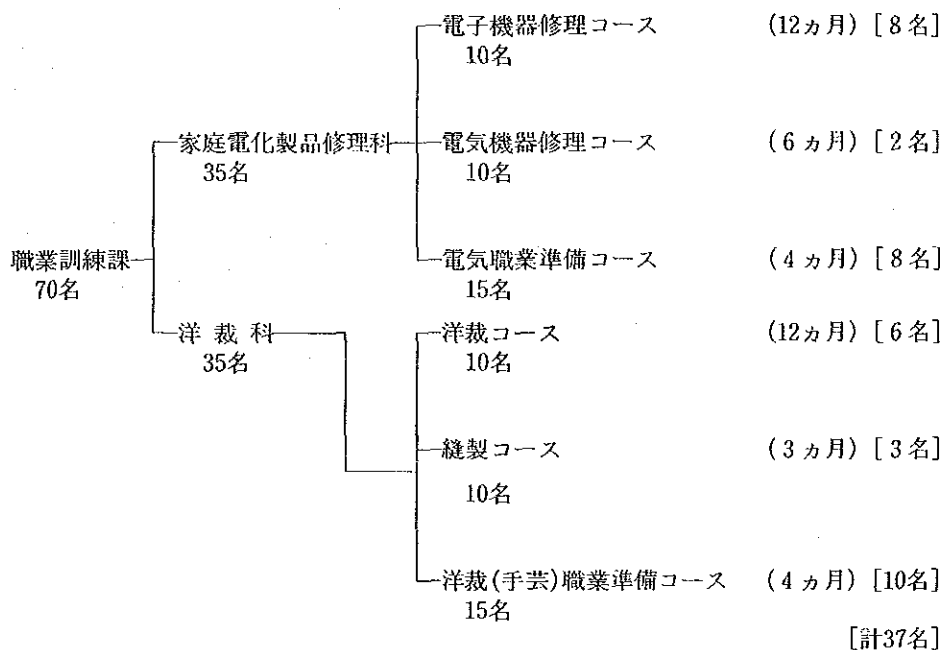
(2) 小型エンジン

1) 小型エンジンコース設置までの経緯および現状

本分野は、前述したように、1987年1月の再編成で新たに設置されたコースであり、日本から昭和62年9月より2ヵ月間派遣された2名の短期専門家(高橋辰栄および若松道博両専門家)により必要なモジュール30ユニットが整備された(巡回指導調査団報告書 海セ, JR, 87-132 p.50参照)。

現在、このうち4ユニット(エンジンの基礎知識、ガソリンエンジン、ディーゼルエ

第1図 訓練コース組織図



() は訓練期間 [] は昭和63年10月3日現在在籍者数

慣習による別名

	タイ側	日本側
電子機器修理コース	エレクトロニクス	電子、ラジオテレビ
電気機器修理コース	エレク	電気
電気職業準備コース	エレクトロエバリエーション	組立、巻き線
ドレスメーカー	ドレスメーカー	洋裁
縫製コース	インダストリアルソーイング	縫製、工業ミシン
洋裁職業準備コース	ハンドクラフト	短期洋裁、手芸

ンジンおよび二輪自動車) の分野が稼働中である。

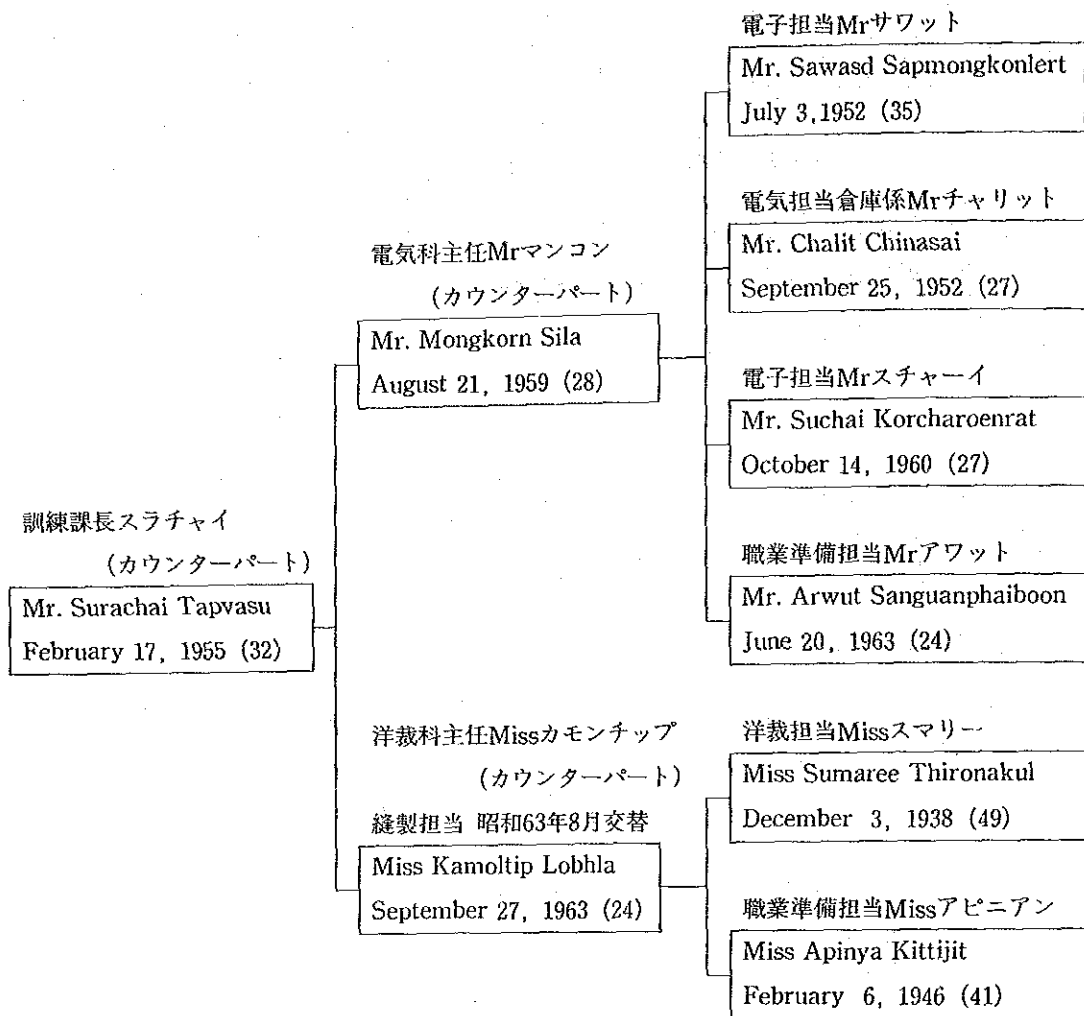
しかしながら現在派遣中の長期専門家はエンジンを専門としていないため、タイ側が前述2名の短期専門家の作成したモジュール訓練計画に従い独自で運営しているといっても過言ではない。このため、技術移転の状況については、全般的にみると概ね良好であるが、なお日本側の継続協力が必要であると思われる。カウンターパートからのヒアリングの結果、特に油圧および電子制御関係分野を中心に短期専門家の派遣および機材供与の必要性があるものと判断される。

2) 本分野設置の必要性に係る調査結果について

前年度巡回指導調査団は、本分野における適性とニーズを調査するよう勧告した。

このため、タイ側は同調査を昭和63年6月頃までに完了する予定である旨回答したが、

第2図 カウンターパート配置図



タイ側の事情により調査結果は本調査団の来泰時にタイ語のもののみが完成されており、その概要は以下のとおり（Yanee 労災補償基金部長による口頭概要説明）である。

- (i) 小型エンジンの市場は十分にあり、そのニーズに対応した職業訓練を実施することは効果的であると判断する。また現在 IRC 内で受講希望者も多い（現在修了者11名、受講中の者7名、希望者6名）。
- (ii) 本分野は自営業に適しており、障害者と健常者（障害者の家族等）が一緒になって行えば作業上の支障は特にないものと考えられる。
- (iii) 小型エンジンの他に適当と思われる職種としては『竹細工』、『陶芸』、『靴修理』、『ファインアート（デザインおよび看板書き等）』、『園芸』、『電話の屋内配線』および『彫金』等14職種の自営業に適した手工業的なものが挙げられる。
- (iv) 上記調査結果に基づき10月10日セミナーが開催された（於プレジデントホテル）。その概要は次のとおりである。

- イ) 参加者は政府関係者(労働局, 教育省等), 大学関係者, 医師および産業界の代表者約60人であり, オブザーバーを含めると約80人であった。
- ロ) セミナーの席上, 最終的に合意されたのは, ①労働市場の雇用機会に合致した各種訓練の実施, ②各種分野のニーズに適合した各種訓練の実施の2点である。
- ハ) さらに, 雇用機会の拡大のため, 前述の各職種に係る訓練の有効性を認める意見が多かった。これら職種は自営業に適するからであり, タイでは, 一度労災事故等に遭うと, その職種を恐れ復職をためらう者が多いという事実もある。
- ニ) また, クォータ・システム(現在日本が実施しているような雇用率制度)およびシェルタード・ワークショップ(保護雇用)を導入すべきであるとの意見も出された。

なお, 同部長は本調査は第一義的なものであり, 将来さらに研究を深めていきたいとも述べた。

4-4-3 訓練修了者の就業状況

昭和63年9月30日現在のIRC入所状況は下記のとおりである。

入所者総数	389名(うち女子86名)
中退者	24名(" 5名)
修了者	283名(" 60名)
在籍者	82名(" 21名)

さらに, 職業訓練修了者の就業状況(現在まで60名が修了)については, 第4表のとおりであり, またその理由は以下の通りである。

- (1) 復職(復職後配置転換含む)は7名(12%)と低い水準にあるが, これは, 前記 Yanee 部長の指摘による理由が大きいと思われる。
- (2) 26名が新規就職(43%)となっているが, 現在のタイにおける職業紹介制度から考えると, この率は想像以上に高い。これは, タイ側の努力と日本人専門家の指導の結果である。
- (3) 自営業についても25名(42%)とその比率は高い。しかし, 次の要素を勘案する必要があり, むしろ就職のカテゴリーに含めた方が適切かもしれない。

- 1) タイ国においては, 従来, 障害者が就職等で社会に出ることは少なく, 家族または一族が同人を扶養するのが一般的であった。しかし, 障害者が職業訓練の結果手に職を持ち, かつ自分自身で収入の一部または全部をまかなうことは, タイの障害

者自立という歴史的観点からするとまさに革命的とも言える。

- 2) 前述したように、職業紹介制度が未整備である。
- 3) 特に農村地区に帰郷した場合、新たな雇用先を見つけることは非常に困難な状況にある。反面、そのような状況下においても故障部分を修理する技術を有することは貴重な人的資源となりうる。

第4表 修了者の就業状況

(63年9月30日現在)

就業内容	小型エンジン	電気	電子	洋裁	縫製	計
復職	2	0	0	0	3	5
復職後配置転換	0	1	0	0	1	2
新規就職	0	16	1	8	1	26
自営	9	4	0	8	4	25
その他	0	0	0	1	1	2
計	11	21	1	17	10	60

4-4-4 協力期間延長後の協力内容

協力期間延長後の協力内容については、数回にわたる討議の結果、下表のような結論に達した。

タイ側との協議概要

コース名	現 状	タイ側要求	協議結果	備 考
電 気	家庭用電化製品の修理	冷凍空調関係職業訓練の実施 (1) エアコン(家庭用が主体で小型業務用含む) (2) 冷蔵庫および業務用フリーザー (3) 自動車用エアコン	(1) 冷凍空調科は設置せず電気科の1部門として含める。 (2) 自動車用エアコンは実施しない。 (3) 日本側は冷凍空調関係の短期専門家の派遣、カウンターパートの研修および機材供与を行う。	
小 型 エ ン ジ ン	日本人専門家の作成したモジュールのうち4ユニット(1)基礎理論(2)小型エンジン(3)モーターバイク(4)自転車)を実施	左記ユニット(2)および(3)を充実させるべく特に電気系統および油圧系統に対する日本の協力および建物の無償供与を要請	(1) 建物に関しては追加無償供与は不可能である旨説明し、タイ側も了承。 (2) 電気系統等を中心に協力する。 (3) 日本側はこの分野において短期専門家の派遣、カウンターパートの研修および機材供与を行う。	機材供与のためのスペースが問題となるが、タイ側が日本人専門家と協議のうえ実習室のレイアウトを変更する。
電 子	テレビ修理	ビデオテープレコーダー(VTR)の修理における日本側の協力を要請	現状においては実施困難	

注1 専門家の派遣、カウンターパートの研修および機材供与に係る詳細な協力内容については日本人専門家とタイ側で調整のうえ、昭和64年1月開催予定のリーダー会議の際最終的に検討する。

注2 洋裁等については特に協力延長の必要はないと思われるが、障害者用ミシン等の供与を必要とする可能性があり、その判断はタイ側へ委ねる。

注3 VTRの修理については、前提条件として、テレビに関する理論と修理技術をマスターすることが不可欠であるが、そのためには、少なくとも高卒以上の基礎的学力を必要とする。しかし、現在の電子コースの入所生の学歴は中卒がほとんどであり、実施はかなり困難であると思われる。

従って、約2年間の延長期間における職業訓練分野の具体的協力内容は、

(1) 電気分野

従来の家電修理に加え、冷凍空調機器修理を加える。

(2) 小型エンジン分野

電子制御および油圧系統を中心に協力を実施するものとする。

なお、冷凍・空調および小型エンジンについては、従来より重量物等の運搬が障害者の雇用として適切か否かの議論があったが、タイ国の実状から鑑みて、場合によって(据えつけ等)健全者と一緒に活動することで大きな支障はないものと判断された。

また、調査団が帰国する前に入手した必要機材リスト等は第5表～第7表のとおりである
(ただし、修正される見込み)。

第5表 冷凍・空調分野供与希望機材リスト

1	家庭用冷蔵庫	5台
2	家庭用ルームクーラー	
	ウインド型クーラー	2台
	セパレート型クーラー	2台
3	大型クーラー	1台
4	冷凍食品ショー、クーラー	1台
	設置修理用工具	1式
	測定機	1台
	展示説明用カット模型	1台
	配管材料	

第6表 小型エンジンコース供与希望機材リスト

1	コンロッドアライナー	Conrod Aligner	2
2	バルブリフェーサー	Valve Refacer	1
3	バルブスプリングテスター	Spring Tester	1
4	シリンダーボーリングマシン	Cylinder Boring Machine	1
5	シリンダーホーニングマシン (手動式簡易型)	Cylinder Honing Machine	1
6	プラグテスター	Plug Tester	1
7	ディーゼルアナライザー	Diesel Analyzer	1
8	パーツワッシャー	Parts Washer	3
9	ピストンヒーター	Piston Heater	1
10	エンジンチューンナップテスター	Engine Tune-up Tester	2
11	エアインフレーター	Air Infrator	1
12	オイルバケットポンプ	Oil Bucket Pump	2
13	ポートパワーセット	Porto Power Set	1
14	カーワッシャー	Car Washer	1
15	ディーゼルスモークメーター	Diesel Smoke Meter	1
16	ノズルテスター	Nozzle Tester	2
17	シリコンバッテリーチャージャー	Silicon Battery Charger	1
18	ウィッシュボード	Wish Board	4
19	アマチュアテスター	Armature Tester	1
20	燃料消費計	Fuel Consumption Meter	1
21	自動車用普通騒音計	Sound Level Meter	1
22	磁気探傷器	Flow Detector	1
23	エンジンダイナモメーター (単気筒エンジン用)	Engine Dynamo Meter For Motorcycle	1
24	エンジンスタンド	Engine Stand	5
25	ハンドリフター	Hand Lifter	1
26	ベビークレーン	Baby Crane	2
27	作業台	Work Bench	3
28	定盤	Surface Plate	2
29	油圧プレス	Hydraulic Press	1
30	アーク溶接機	Arc Welder	1
31	アセチレン溶接機セット	Acetylene Gas Welding Set	1
32	卓上旋盤	Mini Lathe Machine	1
33	教材	Teaching Materials (C.D.I Ignition Systems)	1
34	スペアパーツ	Spare Parts	1
35	特殊工具・治具	Special Tools	1
36	備品類	Fixtures	1
37	可視化エンジン	Visual Engine	1
38	バイク用タイヤ交換機	Tire Changer For Motorcycle	1
39	車輪バランサー	Wheel Balancer	1
40	シリンダー・ライナー・プラー	Cylinder Liner Puller	1

第7表 短期専門家の業務内容(機材との対応表)

Assignment of Japanese Experts on Small Engine		機材番号
1.	Fuel Systems	No.33, 35
	1.1 Injection pump	
	(How to repair, there are many types)	
	1.2 Nozzle	No.33, 34
	(How to repair, How to check)	
2.	Ignition Systems	
	2.1 Magneto with C.D.I. Systems	No.33, 34
3.	Engine Location with Tractor	No.35
4.	Hydraulic Systems in Tractor	
	4.1 Hydraulic pump	No.33
	4.2 Hydraulic Control Valve	No.33
5.	Pump	No.33, 34, 35
	(For repair)	
6.	Electronics Control	No.15, 7, 10, 20, 21
7.	Combustion Methods	No.23, 37
8.	Power Tiller	
	(Gear Car body)	

注 No.33 (教材)は、SECTION MODEL で各種必要。カットエンジンの様に部分的に内部構造が見えるもの。

4-4-5 障害者のための職業訓練についての提言

タイ国の経済発展の進行度は目ざましいものがある。本プロジェクトが発足した時点から見ても、外国企業(特に日本)の企業進出には目をみはるものがあり、モータリゼーションおよび住宅建設ブームも予想以上の状況にある。

タイ国の職業リハビリテーションをより一層効果的に推進するためには、次のような改善すべき点がある。

- (1) IRCは労働災害被災者のために設立されたことは言うまでもない。しかし、労働災害防止のための対策の観点から見ると、先進国のレベル(法的整備およびその遵守状況)に達しているとは言い難く、労働災害防止のための一層の努力が切に望まれる。このため、わが国労働省から労働安全衛生センター(NICE)へ派遣されている寺岡専門家の活躍に期待するところが大きい。
- (2) 職業紹介機関との連携もまた望まれるところである。
- (3) 障害者に対する法的および制度的援助がまだまだ不十分である点にも触れておきたい。IRCがタイ国における障害者の労働問題の解決のための先駆的役割をはたしていることは明らかであるが、さらに言及するならば、将来的には労働災害被災者のみならず、全ての障害者に対してもその門戸を開放する必要が生じよう。
- (4) 現在IRCで各種リハビリテーションを受講している者は、軽・中度の障害者がほとんど

どである。将来的には重度障害者を受け入れることが必要であり、また受け入れるべきであると考えるが、そのための IRC の一層の発展が望まれる。ただし、この場合には、車イス使用者および重度視覚障害者等のための施設、設備の改善が必要である。

- (5) さらに、技術的な面に言及するならば、社会全般における水準の向上が望まれる。具体的に例を挙げるならば、テレビ画像の鮮明さ、画質および音質の向上を指摘できよう。つまり、テレビ放送局自体から送信される画像等が十分でなく、このため国民の一般的感覚としてテレビは画像がうつり、音が出さえすれば良いと思っているところがある。このため、日本から派遣されている専門家がより高度な技術移転を試みても、カウンターパートがその理由を体得できず、専門家がジレンマに陥っているふしが見られる。

4-5 医療リハビリテーション分野

4-5-1 IRCにおける医療リハビリテーションの現状

タイ国における現在の医療体制上の問題点としては、IRC 事前調査の段階より、

- (1) 医療組織がバンコク等の都市の一部を除き、極めて未発達の状況にある。
- (2) 医療組織の需要を満たすに足る capacity がない。
- (3) 医療補償制度が労災保険以外はなく、労災保険も労働災害の一部しか cover していない。

等の問題点が指摘され、特に医療リハビリテーションの欠如が指摘された。

こうした点を考慮し、職業リハビリテーションセンターである IRC に医療リハビリテーション分野が付設されたが、当初の予測によれば、医療リハビリテーションが必要と考えられる者は、全入所者の10~20%であった。しかし後述の如く1988年7月18日までの入所者347人中338人がなんらかの医療リハビリテーションサービスを受けているのが現実であり、当初の予想を遙かに上回り、施設およびスタッフの許容量を越えている。

医療リハビリテーションのみで退所した者は48名で14%に達する。また手術等の医療処置を必要とする者も減少傾向にあるとはいえ、依然として後を断たない。

このように職業リハビリテーションの存在意義等についての医療社会および被災労働者への未浸透、労働市場状況と前記の医療組織の未発達が相まって、当初設定された IRC の性格の一部変更を余儀無くされているのが現状である。

入所者の障害構造は別表1、2のとおり上肢障害者が大半を占めており、頭部外傷、脊髄損傷等の重度障害者はほとんど含まれていない。

4-5-2 技術移転達成状況

医療リハビリテーションにおける技術移転に関しては、タイ国にかなり高度な技術基盤が

存在するが、その範囲が極めて狭いこと、リハビリテーション医療の基盤を成す治療医学の全般的発展度が低いこと、必要とされるリハビリテーション技術が個々の症例において異なること等のため、達成すべき技術移転の限度の決定および客観的評価が困難である。

(1) 医師

当初 part time で十分と考えられたが、上記の如く医療部門の必要度増加に伴い、IRC において要をなす職種となり、常勤の医師がリクルートされた。

現在の Dr. Suradij は general doctor としての臨床経験はあるが、リハビリテーション医としての経験はなく、日本での4ヵ月の研修を含んでも、まだ1.5年の臨床研修しか経ておらず、医療リハビリテーション全般および入所者全員の disability に関する業務を遂行するうえには、さらに医療リハビリテーション全般にわたる研修および職業リハビリテーションの知識の習得が必要と考えられる。特に義肢・装具の処方、評価技術および hand rehabilitation の知識の習得は急務と考えられる。

(2) PT

先任の Miss Sirinand に関しては、一応現在の IRC の状況に対応できる能力を有する段階にあると考えられる。まだ義肢の評価および訓練については問題があるが、具体的な症例がなければ技術移転が困難であり、今後半年間に義肢に関する joint workshop の機会を利用しての技術移転の促進が期待される。

将来入所者の障害構造が変化を生じ、脊髄損傷、頭部外傷等の中枢神経麻痺やその他の重度障害者への対応が要求されるような場合には適切な指導が改めて必要になると思われるが、OT の場合を含めて医師への技術移転により対応すべきと考える。

新任の Mr. Wicharm に関しては卒業直後であり、今後全般的な研修を要する。

(3) OT

Mr. Somsack については仮義手、簡易装具の製作を含め、IRC の現状に十分に対応できる能力があると考えられる。ただし職業リハビリテーションとの境界領域への対応については、彼自身の能力および組織の面からも不十分と考えられる。

(4) 義肢装具士

義肢に関しては、タイ国はその経済的事情、医療事情のために未発達であり、義肢部品の供給事情等の背景も日本と異なり、IRC の義肢部門の業務もタイ式の conventional な義肢製作—日本技術の導入—タイ国に適した新しい義肢の開発の3段階の発展が想定されている。従って Mr. Yanyong も日本研修より帰国直後であり、技術移転は今後を中心に置かれることとなる。

Mr. Yanyong の技術能力は、一応自力でタイ式義肢および日本式義肢の標準的なものの製作が可能な程度の技術を有している。

4-5-3 供与機材の活用状況

機材の活用および保守の状況はほぼ満足すべきものと考えられる。ただし義肢部門で一部技術移転が終了していないために、活用度が予測された程度より少ない物もあるが、技術移転がさらに進めば活用されるものと思われる。

4-5-4 組織運営状況

医療リハビリテーション分野は Dr. Suradij を中心に運営されており、義肢部門を除けば特に問題はない。義肢部門に関してはまだ Dr. Suradij の義肢処方、評価の能力に問題があるが、今後の研修の結果に期待したい。

職業リハビリテーションとの協同作業の面では努力が始められてはいるが、定期的な合同カンファレンスも持たれておらず、組織面で問題があると考えられる。

4-5-5 IRCにおける医学的問題

(1) 入所選考上の問題

一部志願者の medical document の不備、X線写真等の検査不足が指摘されている。

また志願者数が十分でないこと、労災保険の治療費限度額が低いこと等により、医学的にみて必ずしも適切な志願者が入所しているとは言えない。一部には医療のみで退所している者も見られる。

(2) 医療リハビリテーション分野の問題

イ. 手術等の医療が先行しないと医療リハビリテーションの効果が期待できない例が見られる。

ロ. 初期治療の不良のために医療リハビリテーション効果が期待できない例が見られる。

ハ. 医療リハビリテーション対象者が予測されたより遙かに多い。

ニ. 義肢の不適合者が多く、再製作の場合に外部での製作では適切な義肢が必ずしも得られない。

ホ. PT・OT は現在の訓練生の障害には対応できるが、将来訓練生の障害構造に変化が生じた場合、適切な指導が必要となる。

(3) IRC 組織内での医療リハビリテーション分野の問題

職業リハビリテーション instructor の障害学に対する知識が十分でない現在、特に医療リハビリテーションと職業リハビリテーションの境界線上での協同作業が必要と考えられる。Dr. Suradij は、カウンターパート就任後この点に努力はしているが、組織的なものになっていない。

(4) タイ医療社会に於ける IRC 医療リハビリテーションの問題

現段階で IRC の医療リハビリテーション分野は、スタッフにはまだ問題はあるが、タイ国の中でも最上級の施設を有しており、また資金的にも恵まれており、そのレベルは他の一般病院より抜き出ている。従って IRC で得られた結果を、特に義肢に関しては IRC 退所後に地方で維持するのは極めて困難であり、IRC 医療リハビリテーションの発達は周辺医療リハビリテーションの同時発達を必要としている。

4-5-6 今後の IRC 医療リハビリテーションの課題

- (1) 義肢装具部門の確立とタイ国に適した近代義肢の開発。
- (2) 職業リハビリテーションとの協同作業の組織化。
- (3) 職業リハビリテーションとの関連における医学的リハビリテーションの研究活動。
- (4) 医療社会における医療リハビリテーションおよび職業リハビリテーションに対する啓蒙活動。
- (5) 入所者の将来の障害構造の変化への対応策の検討。

統計資料

1988年7月18日までに入所した347人について以下の統計が得られた。

- | | |
|---|------|
| 1 何らかのかたちで1回以上医療リハビリテーションサービスを受けたことのあるもの。 | 338人 |
| PT サービスを受けたことのあるもの | 292人 |
| OT サービスを受けたことのあるもの | 293人 |
| 2 医療リハビリテーションサービスのみで IRC を退所したもの。 | 48人 |
| 3 入所者の障害について。 | |

表1 片側の障害

	右	左	合計
手部の切断	2	0	2
前腕切断	16	7	23
上腕切断	8	7	15
肩離断	3	1	4
下腿切断	6	6	12
大腿切断	4	5	9
指の機能障害	72	49	121
手の機能障害	60	20	80
上肢の機能障害	6	4	10
足部の機能障害	7	4	11
下肢の機能障害	7	3	10
頭部外傷による片麻痺	2	2	4
	193	108	301

表2 複数の部位に障害のおよぶもの

両側の指に障害のおよぶもの	1
両側の手に障害のおよぶもの	2
両側の upper 肢に障害のおよぶもの	2
両側の足部に障害のおよぶもの	1
両側の lower 肢に障害のおよぶもの	1
両前腕切断	3
両上腕切断	2
両下腿切断	2
両大腿切断	1
三肢切断	3
両上下肢、体幹に障害のおよぶもの	9
体幹のみに障害を持つもの	9
対麻痺	1
目に障害を持つもの	8 (含む全盲1)
不明	1
	46

表1 + 表2 = 347

4 1987年9月から1988年4月までの医療リハビリテーション課における治療実施統計

OT

	SEP.	OCT.	NOV.	DEC.	JAN.	FEB.	MAR.	APR.
Activity therapy	407	423	355	186	364	344	301	354
Sensory re-education	21	-	-	-	-	-	-	-
Desensitization	51	-	-	26	18	35	-	13
Biofeedback	60	20	17	-	-	16	-	15
Splinting	96	4	3	3	84	11	5	52
Aid device	2	2	10	1	7	3	1	3
Pros. check out	-	-	3	-	-	1	13	-
Pros. training	-	28	26	45	42	-	68	34
Therapeutic ex.	-	553	355	307	364	344	455	320
T. Pros. making	-	1	-	-	1	-	2	1

PT

Ex. therapy	261	332	368	247	334	403	368	392
Electrical therapy	60	59	54	63	63	53	97	81
Hydrotherapy	81	36	113	38	84	119	95	-
Heat therapy	148	170	160	60	128	179	125	186
Gait training(Pros.)	24	5	-	10	38	86	72	35

IRC 入所後、何らかの医療処置を他の病院で受けた件数（手術を含む）

1987

1988

SEP.	OCT.	NOV.	DEC.	JAN.	FEB.	MAR.	APR.	TOTAL
1	2	2	2	3	5	2	1	18

IRC入所後、何らかの検査を他の病院で受けた件数 (X-P など)

1987				1988				
SEP.	OCT.	NOV.	DEC.	JAN.	FEB.	MAR.	APR.	TOTAL
8	8	6	7	11	18	9	10	77

医療リハビリテーションの期間について

医療リハビリテーションのみでIRCを退所したケースのIRC滞在期間は、最短で1日、最長で6ヵ月19日、平均で1.49ヵ月であった。

医療リハビリテーションと職業準備課程のみで、職業訓練課程を受けずに退所したケースのIRC滞在期間は、最短で10日、最長で1年2ヵ月15日、平均で3.94ヵ月であった。

義肢装具の処方および製作状況

外注のほとんどのケースはシリラート病院とラドシン病院で製作されている。そのほかにチュラロンコン病院、ヴェテラン病院で少数製作されている。一番信頼性の高いものはチュラロンコン病院製であるが、ほとんど輸入パーツを使い値段が高いことと、現金が必要なためIRC入所者が個々の義肢を手に入れることは難しい。ラドシン病院製は、安いがフックの材質、ケーブルシステムなどに問題が多い。

前腕義手の場合はそう大きな問題はないが、上腕義手の場合ソケットの適合性、ケーブルの取り付け位置に問題がある場合が多い(パーツ自体の問題を除けば)。

義肢装具の使用状況

IRC入所中

義足は全例常時使用されている。

義手は少なくとも訓練中は全例使用している。

IRC退所後

フォローアップされておらず不明。

5. 訓練計画基本構想評価

5-1 職業評価分野および職業指導分野

計 画	現 状
<p>1. 訓練目標</p> <p>① 職業評価分野 身体機能、作業動向とその遂行能力、作業態度と人間関係等職業能力の可能性と特徴を評価する。</p> <p>② 職業指導分野 入所者の再雇用を促進するため、入所者に対し就職情報、職業相談、工場見学および企業におけるOJTの機会を与えるとともに事業主に対し指導援助を行う。</p>	同左。
2. 訓練内容	
3. 訓練対象および受講資格	
4. 訓練期間・時間および実施回数	
5. 定員	
6. 募集選考方法	

計 画	現 状
7. 訓練手当または授業料	
8. 訓練方法 (座学・実習比率)	
9. 通学方法	
10. 訓練終了後の資格と処遇	
11. 訓練ニーズの把握およびカリキュラム見直し状況	

評価

職業評価および指導分野において達成された技術移転は①募集選考②テスト・相談・観察③結果解釈④結果の伝達・記録⑤事業所訪問や指導⑥労働事務所等との連携の糸口⑦ケース会議・リハビリテーションプランのあり方などのIRC関連システムとの調整⑧ワークサンプルやOJE・OJTなどの将来的業務向上のための提案などで、当初の技術移転計画をほぼすべて達成したと判断される。

カウンターパートは全員タイの一流大学卒業の経歴を有しており、基本的な業務を遂行する資質は十分あるし、実際業務遂行の上でもほぼ自立している。また、業務向上に対する意欲も十分あるものと考えられる。

IRCが職業リハビリテーション施設として機能していくための基本的システム・方法・技術は移転できたと考えられるが、カウンターパートのかかえている問題意識からも明らかになっているように、細かく見ていくとさらにいろいろな問題がある。ただし、それらの問題はタイの法律・制度とかかわる問題、文化・慣習との問題、労働市場・雇用事情との問題等との関係が深く、労働局WCF部の1機関であるIRCで、しかも日本人(外国人)がさらに移転可能な技術には極めて制限があると思われる。

しかし、職業リハビリテーションがタイ社会の中でより有効に機能してゆくためには、上記の諸問題へのアプローチが必須であり、この面での協力のあり方について、日本・タイ双方の関係者の話し合いを期待する。

5-2 職業準備分野

計 画	現 状
<p>1. 訓練目標</p> <p>職業リハビリテーション計画に基づき、対象者が元の職場復帰等に必要の諸要件を円滑に回復できるように援助・助言を行う。</p>	<p>同左。具体的には以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① ジョブサンプルによる精密評価 ② 適職領域 ③ 自信の回復および養成 ④ 作業習慣の回復 ⑤ 作業耐久力の増進 ⑥ 作業能率の改善 ⑦ 作業方法の改善 ⑧ 作業環境の改善 ⑨ 必要な技能の習得
<p>2. 訓練内容</p> <p>職業準備として、5コースを設定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 機械コース ② 金工コース ③ 木工コース ④ 組立コース（電気組立，短期洋裁） ⑤ 事務コース 	<p>職業準備として4コースを運営中。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 機械コース ② 金工コース ③ 木工コース ④ 事務コース
<p>3. 訓練対象および受講資格</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 原則として、病院において医療リハビリテーションを終えていること ② 日常生活において身辺処理のできること ③ 原職復帰あるいは自営業につける見込みの十分あること ④ 伝染性もしくは精神的疾患を有さぬこと 	<p>入所生の障害程度は軽度から重度へと幅広く、特に上手指の切断，機能障害が多い。</p> <p>就労経験では単純雑多な作業歴の者が多い。</p> <p>義肢未装着者が多く，入所後再手術や義肢製作が必要となるケースが多い。</p>
<p>4. 訓練期間・時間および実施回数</p> <p>各コースとも4ヵ月を限度とする。</p>	<p>個々の入所者の必要に応じて，1ヵ月以下の短期のケース，期間延長のケース等弾力的に対応している。</p>
<p>5. 定員</p> <p>職業準備課程の定員は70名とし，各作業部門毎の最高定員は次のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 機械コース 15名 ② 金工コース 15名 ③ 木工コース 15名 ④ 組立コース 15名 ⑤ 事務コース 10名 	<p>職業準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 機械コース 10名 ② 金工コース 15名 ③ 木工コース 12名 ④ 事務コース 20名 <p>職業訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 機械コース 5名 ② 板金コース 5名 ③ 溶接コース 10名 ④ 木工芸コース 4名 ⑤ 家具コース 5名 ⑥ 小型エンジンコース 25名 ⑦ 一般事務コース 4名 ⑧ タイプコース 4名 ⑨ 印刷コース 4名

計 画	現 状
<p>6. 募集選考方法</p> <p>労働局の被災労働者リストのコピーを取り、職業評価指導課にて書類選考の上、対象者に案内を送付。そのうち来所した者について、スクリーニング委員会にて入所を決定する（実質的には随時入所）。</p>	<p>① Bangkok 事務所へ週2回（月・木）出張相談を実施。</p> <p>② シリラート病院レーバー・クリニックへ週1回（火）出張相談を実施。</p> <p>③ 地方労働事務所からの文書等による応募。</p> <p>④ 事業所等からの直接応募（労働事務所関与）などでの応募者についてスクリーニング委員会で入所を決定する（実質的に随時入所）。</p> <p>⑤ 応募者のほとんどが入所を認められている。</p>
<p>7. 訓練手当または授業料</p> <p>① 訓練手当および受益者負担なし。</p> <p>② 労災補償基金の中から、IRCのリハビリテーションを利用する者については2万バーツのリハビリテーション費が支給され、その中において必要な措置がなされる。</p>	<p>① 同左。</p> <p>② 同左。</p> <p>③ 修了後、自営資金等が必要なものについては、別途クンナコン基金よりの拠出が検討される。</p>
<p>8. 訓練方法（座学・実習比率）</p> <p>① 集団訓練方式を採用。</p> <p>② 原則として職業準備は座学や理論を中心としない。実習こそ職業準備指導目標を達成する手段である。作業の選択にあたっては、適性に合わせ、将来就職に直接役立つものを選ぶ。</p>	<p>個別モジュール訓練方式を採用し、ケースの必要性に応じてたてられた個別訓練プログラムに沿って訓練が実施される。</p> <p>学科、実技の比率はモジュール毎に異なる。</p>
<p>9. 通学方法</p> <p>全員入寮制である。</p>	<p>原則として全員入寮制である（一部近郊居住者に限り通学も認めている）。</p>
<p>10. 訓練終了後の資格と処遇</p> <p>修了者に対しては、修了証を授与。</p>	<p>職業訓練（技能訓練）コースのモジュール終了時において、評価基準を満たした者に対してはサーティフィケート（技能証）を発行している。</p> <p>ただしIRC独自の基準によるもので、NISD（中央職業訓練所）の水準とは異なる。</p> <p>技能に自信のある場合は、NISDの試験に挑戦することが可能である。</p>

計 画	現 状
<p>11. 訓練ニーズの把握およびカリキュラム見直し状況 設立当初のリハビリテーションプログラムに対して入所者、カウンターパートおよびタイ政府より訓練期間の延長、職種の増設および拡張の要請があり再編成計画を提案、その後合意に達し昭和62年2月より順次試行している。</p>	<p>カリキュラム変更後の職業準備課程の訓練状況は以下の通り。</p> <p>① 機械（普通旋盤、フライス盤） 訓練生は、徐々に増加してきており、5人前後を維持している。モジュールユニット、ジョブシートなどの教材が、最も良く整備されているコースである。</p> <p>② 金属工芸（電気・ガス溶接、板金） 溶接科は、一貫して最も利用率の高いコースのひとつであり、現在のところ10人前後抱えている。溶接は建設業、車・電気製品等の修理業、門その他様々な製品の加工のため、至るところで行われている。 今後もニーズは高いと考えられる。 また、小型エンジンコースと連携し、訓練生に必要な溶接技術の訓練も実施している。 一方、職業訓練としての板金コースには、コース開設以来該当者がなく、今後見直しの対象となろう。</p> <p>③ 木工（家具製作、木工芸（ウッドクラフト）） 訓練期間が短い準備課程の利用が多く、常時5人前後の利用がある。長期の家具コースについては、これまで3人が終了した。しかし、ウッドクラフトコースの利用者はなかった。ウッドクラフトについては、実際には準備課程の中で指導が行われている。</p> <p>④ 小型エンジン（職業訓練コース） 訓練生に最も人気のあるコースで、15人程度が常時学んでいる。これまで使用されてきたモジュールは、エンジン分解修理、農業用エンジン、モーターサイクル、自転車整備である。今後も需要が多く、訓練スペースの点から新たな実習場の確保が懸案となっている。</p> <p>⑤ 事務（一般事務、タイプライター、軽印刷） 通常、準備課程として利用されるコースである。訓練課程としては、一般事務に1人学んでいる他はタイプ、印刷とも利用者はなかった。将来は、準備課程の中で取り扱うほうが妥当であろう。</p>

評価

カリキュラム編成については、カウンターパートが主体的に実施可能である。各カウンターパートはインストラクター、アシスタントインストラクターとも既に訓練上必要な技能を有しており、先端技術（コンピュータプログラミング、NC旋盤など）を除いて技術指導上特に問題はない。しかし、職業準備の意義は単に簡易訓練もしくは短期訓練にあるのではなく、個々の訓練生が社会復帰しようとする際に存在する職業的障害の除去でなければならない。

職業的障害には技能面も含めて考え、社会復帰に必要なモジュールを選択しその作業上現れる様々な能力障害について、その軽減および除去を狙うのである。

このプロセスについての理解は深まっているものの、完全に機能させるためには多少問題点が残っている。まず、手術等医療ケアを控えた入所生が多く、そのケースに対しては職業準備の幾つかの項目が設定できない。また、初期評価での詰めが甘く、指導目標が設定されずにコースの振り分けにとどまってしまうことが多い。初期段階で推定によるしるしゴール設定を明確にすることは、モジュールの選択、能力障害の把握、職業準備指導目標の設定の前提条件として不可欠と考えられる。

5-3 職業訓練分野

計 画	現 状
<p>1. 訓練目標 職業リハビリテーション計画に基づき、対象者が元の職場復帰等に必要の諸要件を円滑に回復できるように援助・助言を行う。</p>	<p>ケース会議の結果、障害の程度および学力、個人の能力により目標が設定される。</p>
<p>2. 訓練内容 職業訓練として2コースを設定。 ① 家庭電器修理コース ② 洋裁コース</p>	<p>職業訓練として9コースを運営中。 ① 機械コース ② 板金コース ③ 溶接コース ④ 木工芸コース ⑤ 家具コース ⑥ 小型エンジンコース ⑦ 一般事務コース ⑧ タイプコース ⑨ 印刷コース</p>
<p>3. 訓練対象および受講資格 ① 原則として、病院において医療リハビリテーションを終えていること ② 日常生活において身辺処理のできること ③ 原職復帰あるいは自営業につける見込みの十分あること ④ 伝染性もしくは精神的疾患を有さぬこと</p>	<p>入所生の障害程度は軽度から重度へと幅広く、特に上手指の切断、機能障害が多い。 就労経験では単純雑多な作業歴の者が多い。 義肢未装着者が多く、入所後再手術や義肢製作が必要となるケースが多い。</p>
<p>4. 訓練期間・時間および実施回数 各コースとも4ヵ月を限度とする。</p>	<p>個々の入所者の必要に応じて、1ヵ月以下の短期のケース、期間延長のケース等弾力的に対応している。</p>
<p>5. 定員 職業準備課程の定員は70名とし、各作業部門毎の最高定員は次のとおりとする。 ① 機械コース 15名 ② 金工コース 15名 ③ 木工コース 15名 ④ 組立コース 15名 ⑤ 事務コース 10名</p>	<p>職業準備 ① 機械コース 10名 ② 金工コース 15名 ③ 木工コース 12名 ④ 事務コース 20名 職業訓練 ① 機械コース 5名 ② 板金コース 5名 ③ 溶接コース 10名 ④ 木工芸コース 4名 ⑤ 家具コース 5名 ⑥ 小型エンジンコース 25名 ⑦ 一般事務コース 4名 ⑧ タイプコース 4名 ⑨ 印刷コース 4名</p>

計 画	現 状
<p>6. 募集選考方法</p> <p>労働局の被災労働者リストのコピーを取り、職業評価指導課にて書類選考の上、対象者に案内を送付。そのうち来所した者について、スクリーニング委員会にて入所を決定する（実質的には随時入所）。</p>	<p>① Bangkok 事務所へ週2回（月・木）出張相談を実施。</p> <p>② シリラート病院レーバー・クリニックへ週1回（火）出張相談を実施。</p> <p>③ 地方労働事務所からの文書等による応募。</p> <p>④ 事業所等からの直接応募（労働事務所関与）などでの応募者についてスクリーニング委員会での入所を決定する（実質的には随時入所）。</p> <p>⑤ 応募者のほとんどが入所を認められている。</p>
<p>7. 訓練手当または授業料</p> <p>① 訓練手当および受益者負担分なし。</p> <p>② 労災補償基金の中から、IRCのリハビリテーションを利用する者については2万バーツのリハビリテーション費が支給され、その中において必要な措置がなされる。</p>	<p>① 同左。</p> <p>② 同左。</p> <p>③ 修了後、自営資金等が必要なものについては、別途クンナコン基金よりの拠出が検討される。</p>
<p>8. 訓練方法（座学・実習比率）</p> <p>① 集団訓練方式を採用。</p> <p>② 原則として職業訓練は座学や理論を中心としない。実習こそ職業訓練指導目標を達成する手段である。作業の選択にあたっては、適性に合わせ、将来就職に直接役立つものを選ぶ。</p>	<p>個別モジュール訓練方式を採用し、ケースの必要性に応じてたてられた個別訓練プログラムに沿って訓練が実施される。</p> <p>学科、実技の比率はモジュール毎に異なる。</p>
<p>9. 通学方法</p> <p>全員入寮制である。</p>	<p>原則として全員入寮制である（一部近郊居住者に限り通学も認めている）。</p>
<p>10. 訓練終了後の資格と処遇</p> <p>修了者に対しては、修了証を授与。</p>	<p>職業訓練（技能訓練）コースのモジュール終了時において、評価基準を満たした者に対してはサーティフィケート（技能証）を発行している。</p> <p>ただしIRC独自の基準によるもので、NISD（中央職業訓練所）の水準とは異なる。</p> <p>技能に自信のある場合は、NISDの試験に挑戦することが可能である。</p>

計 画	現 状
<p>11. 訓練ニーズの把握およびカリキュラム見直し状況 設立当初のリハビリテーションプログラムに対して入所者、カウンターパートおよびタイ政府より訓練期間の延長、職種の増設および拡張の要請があり再編成計画を提案、その後合意に達し昭和62年2月より順次試行している。</p>	<p>カリキュラム変更後の職業訓練課程の訓練状況は以下の通り。</p> <p>① 機械（普通旋盤、フライス盤） 訓練生は、徐々に増加してきており、5人前後を維持している。モジュールユニット、ジョブシートなどの教材が、最も良く整備されているコースである。</p> <p>② 金属工業（電気・ガス溶接、板金） 溶接科は、一貫して最も利用率の高いコースのひとつであり、現在のところ10人前後抱えている。溶接は建設業、車・電気製品等の修理業、門その他様々な製品の加工のため、至るところで行われている。 今後もニーズは高いと考えられる。 また、小型エンジンコースと連携し、訓練生に必要な溶接技術の訓練も実施している。 一方、職業訓練としての板金コースには、コース開設以来該当者がなく、今後見直しの対象となろう。</p> <p>③ 木工（家具製作、木工芸（ウッドクラフト）） 訓練期間が短い準備課程の利用が多く、常時5人前後の利用がある。長期の家具コースについては、これまで3人が終了した。しかし、ウッドクラフトコースの利用者はなかった。ウッドクラフトについては、実際には準備課程の中で指導が行われている。</p> <p>④ 小型エンジン（職業訓練コース） 訓練生に最も人気のあるコースで、15人程度が常時学んでいる。これまで使用されてきたモジュールは、エンジン分解修理、農業用エンジン、モーターサイクル、自転車整備である。今後も需要が多く、訓練スペースの点から新たな実習場の確保が懸案となっている。</p> <p>⑤ 事務（一般事務、タイプライター、軽印刷） 通常、準備課程として利用されるコースである。訓練課程としては、一般事務に1人学んでいる他はタイプ、印刷とも利用者はなかった。将来は、準備課程の中で取り扱うほうが妥当であろう。</p>

評価

カリキュラム編成については、カウンターパートが主体的に実施可能である。各カウンターパートはインストラクター、アシスタントインストラクターとも既に訓練上必要な技能を有しており、先端技術（コンピュータプログラミング、NC旋盤など）を除いて技術指導上特に問題はない。ただ職業訓練の場合、訓練生は大半が低学歴で電気系訓練の訓練内容を拡大するには限界を感じる。数学物理等の学力を補習しても周辺知識の不足は解決できない。

修了生の就職は一般の失業者の多い、バンコク周辺での就職は困難であるため、彼らの多くは家族と同居してミシン1台を頼りに縫製工場の下請け、ラジオ・テレビの修理等自営することで生計を立てている。修了生の就職に限らずIRC全体の社会的評価を得るには、雇用制度の近代化、社会的背景の改善等、行政に期待しなければならない。IRC内部での努力には限界があるように思われる。

5-4 医療リハビリテーション分野

計 画	現 状
<p>1. 訓練目標</p> <p>入所時の評価の結果、職業リハビリテーションを行うには機能回復が十分でなく、付加的に医療リハビリテーションが必要な入所生に対して、職業リハビリテーションプログラムの実施と併せ、機能回復訓練を行い、すみやかに職業リハビリテーションの遂行ができるようにする。</p>	<p>ほとんどの入所生が医療リハビリテーションを必要としている。このため、医療リハビリテーション分野の充実強化に取り組んできたが、まだ技術水準の向上等について一層の努力が必要である。</p>
<p>2. 訓練内容</p> <p>医療リハビリテーションサービスの提供。</p> <p>① OT訓練 ② PT訓練 ③ 義肢装具、修理 ④ 簡単な自助具の製作 ⑤ (診察、保健)</p>	<p>医療リハビリテーション。</p> <p>① OT訓練 ② PT訓練 ③ 義肢装具、修理・製作 ④ 自助具の製作 ⑤ (診察、保健)</p> <p>近年義肢製作のニーズが高まってきている。</p>
<p>3. 訓練対象および受講資格</p> <p>① 職業リハビリテーションプログラムに入る資格を有していること ② 現在の身体的条件を向上あるいは保つために機能回復訓練を受ける必要があること</p>	<p>タイ国の医療事情は、施設面・人的面および医療保障制度面において不足の状態であり、特に医療リハビリテーションにおいてはバンコク周辺を除くと皆無に等しい。したがってIRC入所者のほとんどが医療リハビリテーションおよび何らかの追加医療が必要な状況となっている。</p>
<p>4. 訓練期間・時間および実施回数</p> <p>3ヵ月以内を目途とする。</p>	<p>3ヵ月以内がほとんどであるが、一部には4ヵ月以上におよぶものもある。</p>
<p>5. 定員</p> <p>入所生の10%。 最大で10名程度を予定した。</p>	<p>1日平均20~25名程度の訓練生が医療リハビリテーションを受けている。 訓練中に何らかの形で医療リハビリテーションサービスを受ける者は入所生の90%以上である。</p>
<p>6. 募集選考方法</p>	
<p>7. 訓練手当または授業料</p> <p>リハビリテーション経費2万パーツの中から負担される。</p> <p>PT 1回 90パーツ OT 1ヵ月 1,000パーツ 義肢修理 1,000パーツ以内 義肢製作 国立病院価格に準ずる</p>	<p>同左。</p>

計 画	現 状
8. 訓練方法 (座学・実習比率)	
9. 通学方法	
10. 訓練終了後の資格と処遇	
<p>11. 訓練ニーズの把握およびカリキュラム見直し状況</p> <p>① 入所者の90%以上が何らかの形で医療リハビリテーションサービスを受けているのが現状である。</p> <p>② 義肢装具製作、修理件数の増加。不適合義肢装着者が多い。</p> <p>③ 再治療・追加医療必要者が多い。</p>	<p>医療リハビリテーションシステムの整備について次のような改善を行ってきたが、なお一層の努力と改善が必要な現状にある。</p> <p>① 医療リハビリテーション課長として常勤医師(リハビリテーション医師)を確保した。</p> <p>② PTスタッフを増員した。</p> <p>③ 常勤義肢装具士の確保と機材の追加により修理用ワークショップに製作機能を持たせた。</p> <p>④ 非常勤の整形外科医と関連病院との協力により対応しているが、IRC保健室にも医療用治療機器を若干整備し簡単な治療ができるようになった。</p>

評価

<p>① 全般的状況</p> <p>(1) 計画と現実のニーズとのギャップに対してタイ側はよく対応したと思われる。すなわち、予想以上の医療リハビリテーション対象者に対応するためのスタッフの確保(増員)などを積極的に行った。</p> <p>(2) 全体的には技術移転は順調に行われており医療リハビリテーション課長であるDr. Suradij の2回目の研修終了後はリハビリテーションシステムのより一層の充実が図られるものと思われる。</p> <p>② 今後の課題</p> <p>(1) 義肢装具製作に関しては、当初計画では本格的に行う予定ではなかったため、常勤の義肢装具士の配置が遅れ、技術移転期間が短すぎた。したがって、若干の機材の追加(アライメント治具、ラミネーションテーブルなど)と、義肢装具製作の長期専門家の派遣による技術協力の継続が必要と考えられる。</p> <p>(2) IRCが職業リハビリテーションとしての性格を有しているとは言え、医療リハビリテーションに対するニーズは高く(裏をかえせば医療リハビリテーションをある程度行わなければ職業リハビリテーションの遂行が困難なケースがほとんどである)、増え続ける医療リハビリテーション対象者に対応すべく、スタッフの増員(OT、義肢装具士等)と、その資質の向上が必要である。</p> <p>(3) DOL内でのメディカル、パラメディカルスタッフの処遇の改善と、事務その他の雑務から解放し本来の仕事に専念できるような環境を造ることが必要と考えられる。</p>

6. カウンターパートに対する技術移転達成状況

6-1 カウンターパートの配置状況

6-1-1 職業評価分野および職業指導分野

カウンターパート氏名	1984												1985												1986												1987												1988											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
Ms. パニー																																																												
Mrs. ルンナバー																																																												
Ms. ルジナン																																					日本研修																							
Mrs. スミトラ																																																	日本研修											

6-1-2 職業準備分野

カウンターパート氏名	1984												1985												1986												1987												1988											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
Ms. ベンジャワン																																																												
Mr. ダムロンサク																																																												
Mr. ソンポー																																																												
Mr. パリンヤー																																																												
Mr. ペラチャイ																																																												
Mr. チャムロン																																																												
Mr. ウィ Chatt																																																												

カウンターパート氏名	1984												1985												1986												1987												1988																																									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12																														
Mr. ソムヌク																																																																																										
Mr. マンコーン																																																																																										
Mr. チャイリット																																																																																										
Mr. ウイロート																																																																																										
Mr. パイトウーン																																																																																										
Ms. アタイターン																																																																																										

6-1-3 職業訓練分野

カウンターパート氏名	1984												1985												1986												1987												1988																																									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12																														
Mr. スラチャイ																																																																																										
Mr. マンコン																																																																																										
Mr. ビーラコン																																																																																										
Mr. セークボン																																																																																										
Mr. バンदैยット																																																																																										
Mr. アンルアイ																																																																																										
Mr. サフット																																																																																										
Mr. チャリット																																																																																										
Mr. ランサー																																																																																										

カウンタパーパート氏名	1984												1985												1986												1987												1988												
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
Mr. スチャイ																																																													
Mr. アプト																																																													
Mrs. ナーリーラック																																																													
Mrs. スマリ-																																																													
Mrs. アンペンヤ-																																																													

6-1-4 医療リハビリテーション分野

カウンタパーパート氏名	1984												1985												1986												1987												1988												
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
Mr. スラデジ																																																													
Mr. ソムサク																																																													
Mr. ポンサク																																																													
Ms. シリナン																																																													
Mr. ウィチャーン																																																													
Ms. パタポー																																																													
Mr. ヤンヨン																																																													

6-2 カウンターパートの育成状況

6-2-1 日本における研修状況

(1) 職業評価分野および職業指導分野

カウンターパート氏名	研修科目	研修場所および期間	研修結果	現在の状況
Ms. パニー	職業リハビリテーション一般	中部労災等 1984.3~5	職業リハビリテーションの流れおよび職業評価指導の重要性を理解。	IRC職業評価指導課長として活躍している。
Ms. ルジナン	日本語研修および職業評価等	沖繩・職リハ等 1986.10~1987.4	日本語研修および職業評価業務・ソーシャルワーカー業務の重要性を理解。	IRC職業評価指導課ソーシャルワーカーとして活躍中。
Mrs. スミトラ	職業指導等	東京心障センター、 職リハ等 1986.5~7	職業指導業務の流れおよび重要性を理解。	IRC職業評価指導課職業指導担当官として活躍中。

(2) 職業準備分野

カウンターパート氏名	研修科目	研修場所および期間	研修結果	現在の状況
Mrs. ベンジャワン	リハビリテーション行政、一般	1985.3~5	リハビリテーション一般に関して認識が深まる。	1987.4.1退官。
Mr. ソンボン	機械、職業リハビリテーション	TIC等 1985.1~10	職業リハビリテーション訓練のあり方を習得。日本語上達。	課長代行として活躍している。
Mr. マンコーン	組立、職業リハビリテーション	TIC等 1986.6~1987.3	日本語が上達。	電気科主任へ配置転換。
Mr. ベラチャイ	金工、職業リハビリテーション	TIC等 1987.10~1988.7	身障訓練への理解を深めた。	金工主任。
Mr. ウィチット	木工、職業リハビリテーション	TIC等 1987.10~1988.7	身障訓練に関する理解が深まる。	木工主任。

(3) 職業訓練分野

カウンターパート氏名	研修科目	研修場所および期間	研修結果	現在の状況
Mr. スラチャイ	訓練一般	訓大 1987.2~3	訓練の推進に役立っている。	現訓練課長。
Mr. マンコン	職業準備	国立リハビリテーションセンター 1986.6~1987.3	日本語を理解するので情報の移転に効果大きい。	1987年10月より家電コースの主任として職業準備より転入。
Mr. ビーラコン	電気一般	1985.1~1986.3	設立時期の礎石を喪失。	帰国後9ヵ月でNISDへ転出した。

(4) 医療リハビリテーション分野

カウンターパート氏名	研修科目	研修場所および期間	研修結果	現在の状況
Mr. スラデジ	医療リハビリテーション	国立リハビリテーションセンター他 1987.10～1988.2	リハビリテーションマネジメントに精通し、課をよくまとめている。	医療リハビリテーション課長として勤務。
Mr. ソムサック	作業療法	中部労災病院他 1986.6～12	日本語が上達した。OTとしての技術も向上した。	作業療法士として勤務。
Ms. シリナン	理学療法	中部労災病院他 1985.1～7	日本語が上達した。PTとしての技術も向上した。	理学療法士として勤務。
Mr. ヤンヨン	義肢装具製作	渡辺義肢製作所 1987.10～1988.7	新しい製作技術を獲得。業務にいかされている。	義肢装具士として勤務。
Ms. パタポー	リハビリテーション, 看護	国立リハビリテーションセンター他 1988.6～11	現在研修中。	
Mr. ボンサック	上肢装具製作	関西労災病院他 1988.8～1989.2	現在研修中。	

6-2-2 カウンターパート育成状況評価

(1) 職業評価分野および職業指導分野

氏名	年齢	配置年月	学歴	職位	技術習得状況	実技指導能力	教材作成能力	訓練計画作成能力	機材操作能力	機材管理能力	訓練評価能力	職業評価能力	職業相談能力	クライアント対応能力	総合評価
Ms. パニー	36	1984年11月 (1983年10月増備室)	チュラロンコン大卒	職業評価指導課長	A	A	A	A	B	A	A	A	A	A	A
Mrs. ルンナパー	32	1985年6月	チュラロンコン大卒	ソーシャルワーカー	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
Ms. ルジナン	33	1985年1月	ラムカムヘン大卒	ソーシャルワーカー	A	A	B	B	A	B	A	A	A	A	A
Mrs. スミトラ	36	1985年2月	ラムカムヘン大卒	職業指導担当官	A	A	A	A	B	A	B	B	A	A	A

評価基準 A: 調査時点で習得 (技術移転完了) B: R/D終了時点で習得可 (技術移転完了見込み) C: R/D終了時点で習得未完了 (引き続き技術移転必要)

(2) 職業準備分野

氏名	年齢	配置年月	学歴	職位	技術習得状況	教科指導能力	実技指導能力	教材作成能力	訓練計画作成能力	機材操作能力	機材管理能力	訓練評価能力	クラス運営能力	総合評価
Mr. ベンジャワン	35	1984年3月	米国アラバマ州大卒, 修士	退官 (前課長)	A	A			A		A	A	A	A
Mr. ソンポーン	33	1984年10月	スロタイタマサート大卒	機械科主任	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
Mr. ベラチャイ	37	1984年12月	パトゥムタニ高校卒	金工科主任	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
Mr. ウィチャット	30	1985年4月	プラナコン技術専門学校卒	木工科主任	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
Ms. アティターン	27	1985年7月	ジャンカセム技術専門学校卒	事務科主任	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
Mr. ソムヌク	55	1985年5月	訓練指導員養成校卒	木工科助手	A					A	A	A	A	A
Mr. チャムロン	41	1986年9月	シーナカリンピロート大卒	金工科助手	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
Mr. パリンヤー	26	1987年6月	チョンブリ技術専門学校卒	機械科助手	A		A			A	A	A	A	A
Mr. ダムロンサク	33	1987年9月	技術職業教育学校卒	職業準備課長	A	A		A	A		A	A	A	A
Mr. チャイリット	28	1987年9月	ロブリ技術専門学校卒	小型エンジン主任	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
Mr. ウイロート	27	1987年10月	サイアム技術専門学校卒	小型エンジン助手	A	A	A	A		A	A	A	A	A
Mr. パイトウーン	29	1987年11月	不明	小型エンジン助手	A						A	A	A	A
Mr. マンコーン	29	1985年4月	技術職業教育学校卒	組立科より電気科主任へ	A	A	A				A		A	A

(3) 職業訓練分野

氏名	年齢	配置年月	学歴	職位	技術習得状況	教科指導能力	実技指導能力	教材作成能力	訓練計画作成能力	機材操作能力	機材管理能力	訓練評価能力	クラス運営能力	総合評価
Mr. スラチャイ	33	1985年5月	大卒	カウンタースタッフ	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
Mr. マンコン	28	1987年10月	職短大卒	カウンタースタッフ	A	A	A	A	A	A	B	A	A	A
Mr. サワット	36	1985年12月	職短大卒	アシスタント	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
Mr. チャリット	35	1986年9月	下級中学卒	アシスタント	A	C	B	B	C	B	A	C	B	B
Mr. スチャーイ	27	1987年6月	職短大卒	アシスタント	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
Mr. アアット	25	1987年10月	職短大卒	アシスタント	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
Ms. ナーリーナック	23	1987年10月	職短大卒	カウンタースタッフ	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
Ms. スマリー	50	1985年10月	洋裁学校卒	アシスタント	A	B	A	B	C	A	B	B	A	B
Ms. アピンヤー	42	1985年6月	大卒	アシスタント	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A

(4) 医療リハビリテーション分野

氏名	年齢	配置年月	学歴	職位	技術習得状況	患者評価能力	訓練実施能力	看護能力	訓練計画作成能力	機材操作能力	機材管理能力	治療訓練処方能力	義肢義具処方能力	義肢義具製作能力	総合評価
Mr. スラデジ	29	1987年1月	チュエロロンコン大卒	医療リハビリテーション課長	B	B			B	A	A	B	B		B
Mr. ソムサック	28	1985年4月	チェンマイ大卒	作業療法士	A	A	A		A	A	A				A
Ms. シリナン	28	1984年11月	マイドル大卒	理学療法士	A	A	A		A	A	A				A
Ms. パタポーン	29	1985年7月	マイドル大卒	看護婦	A			A		A	A				A
Mr. ポンサック	40	1985年5月	チェンマイ看護学校卒	アシスタントOT	A	B	A	A	B	A	A			B	B
Mr. ヤンヨン	27	1987年5月	義肢装具技術専門学校卒	義肢装具士	B	B				B	B			C	B
Mr. ウィチャーン	22	1988年3月	コンケン大卒	理学療法士	A	A	A		A	A	A				A

6-3 技術移転対象項目別目標達成状況

6-3-1 職業評価分野および職業指導分野

科目	課題	カウンターパート氏名			
		バニー	ルンナバー	ルジナン	スミトラ
基礎理論	職業リハビリテーション, 職業評価, 職業指導について	A	A	A	A
評価技術	テスト, 解釈, 結果の伝達など	A	A	A	B
指導技術	事業所や労働事務所等との連絡, 相談など	A	B	B	A

評価基準 A: 調査時点で習得 (技術移転完了) B: R/D終了時までに習得可 (技術移転完了見込み) C: R/D終了時までに習得未完了 (引き続き技術移転必要)

6-3-2 職業準備分野

科目	課題	カウンターパート氏名	
		ソンボン	バリンヤー
機械科	WP 課程 基礎訓練	A	A
	旋盤作業	A	A
	フライス盤作業	A	A
	VT 課程 導入訓練	A	A
	手仕上げ	A	A
	旋盤作業	A	A
	フライス盤作業	A	A
	<実施技術>		
	Job Test	A	
	Job Sample Test	A	A
	訓練計画 (職業準備)	A	
	訓練記録	A	A
	訓練評価報告書	A	B
	個別訓練カリキュラム	A	
	作業用自助具考案, 製作	A	
	科内 (ケース) 会議	A	
	ケースファイル管理	A	

科目	課題	カウンターパート氏名	
		ベラチャイ	チャムロン
金工科	WP課程 基礎訓練	A	A
	板金作業	A	A
	アーク溶接	A	A
	ガス溶接	A	A
	VT課程 アーク溶接	A	A
	ガス溶接	A	A
	板金	A	A
	金属塗装	A	A
	<実施技術>		
	Job Test	A	A
	Job Sample Test	A	A
	職業準備訓練処方	A	A
	訓練記録	A	A
	訓練評価報告書	B	B
	個別訓練カリキュラム	A	
	作業用自具開発	A	A
	科内ケース会議	A	
ケースファイル管理	A	A	

科目	課題	カウンターパート氏名	
		ウィチッド	ソムヌク
木工科	WP課程 基礎訓練	A	A
	製作指導	A	A
	VT課程 ウッドクラフト	A	A
	仕上げ作業	A	A
	<実施技術>		
	Job Test	A	A
	Job Sample Test	A	A
	職業準備訓練処方		
	訓練記録	A	
	訓練評価報告書	B	B
	個別訓練カリキュラム	A	
	作業用自具開発	A	A
	科内ケース会議	A	
	ケースファイル管理	A	

科目	課題	カウンターパート氏名		
		チャイリット	ウイロート	バイトゥーン
小型エンジン	VT課程 導入訓練	A	A	A
	小型エンジン修理	A	A	A
	自動二輪車修理	A	A	A
	自転車修理	A	A	A
	<実施技術>			
	Job Test			
	Job Sample Test			
	職業準備訓練処方			
	訓練記録	A	A	A
	訓練評価報告書 (WP)	B	B	B
	個別訓練カリキュラム	A	A	
	作業用自助具開発	B	B	B
	科内ケース会議			
	ケースファイル管理	A	A	A

科目	課題	カウンター パート氏名
		アティターン
事務科	WP課程 会計事務	A
	タイタイピング	A
	英文タイプ	A
	断裁器の使用法	A
	応接	A
	ファイリングシステム	A
	電卓による計算	A
	コピーマシン	A
	オフセット印刷機	A
	コンピュータ	B
	VT課程 ファイリング	A
	会計事務	A
	コンピュータ	B
	オフセット印刷機	A
	コピーマシン	A
	断裁器	A
	タイタイプライター	A
	英文タイプライター	A
	<実施技術>	
	Job Test, Job Sample Test	A
	訓練記録	A
	訓練評価報告書	B
	個別訓練カリキュラム	A
	ケースファイル管理	A

6-3-3 職業訓練分野

科目	課題	カウンターパート氏名			
		サワット	スチャイ	アプット	チャリット
電気	Basic Electric	A			
	Tube and Semi Conductor	A			
	Measure Tools of Electronic and Usage	A			
	Electric Circuit	A			
	A.M Radio System	A			
	Digital		A		
	F.M - MPX Radio System		A		
	Tape Recorder System		A		
	Antenna Connecting		A		
	Communication Tecnic	A			
	Black-White T.V System		A		
	Colour T.V System		A		
	Video System	A			
	職業準備組立			B	A

科目	課題	カウンターパート氏名		
		スマリー	ナーリーラック	アンピンヤー
洋裁	Measuring	A		
	Drawing	A	A	
	Pattern	A		
	Cutting by scissors	A	A	
	Sewing by hand	A		
	Sewing machine usage	A	A	
	Seam Sewing	A		
	Make a pattern of collar	A		
	Make a pattern of sleeve	A		
	Make a pattern of pocket	A		
	Sipper insertion	A	A	
	Opening up (button hole)	A	A	
	Blouse sewing	A	A	
	Skirt	A	A	
	Slacks	A	A	
	Shirt	A	A	
	職業準備 (ハンデークラフト) 手芸			A

6-3-4 医療リハビリテーション分野

科目	課題	カウンターパート氏名	
		ソムサック	ボンサック
テスト	ROMテスト	A	A
	MMTテスト	A	A
	ADCテスト	A	A
	手肢機能テスト	A	B
	感覚テスト	A	B
記録および報告	実施記録(治療日誌)	A	A
	報告	A	A
治療種目	洋細工	A	A
	織物	A	A
	紙細工	A	A
	木工	A	A
	タイル・サイク	A	A
	藤芸	A	A
	陶芸	B	B
義手	装着前訓練	A	A
	装着訓練	A	A
	仮義製作	A	A
	義手タック・アウト	A	A
スプリント	スタティックスプリント	A	A
	ダイナミックスプリント	A	A

科目	課題	カウンターパート氏名		
		スラデジ	ヤンヨン	パタポーン
マネージメント	PT・OT訓練処方	B		
	義肢製作処方	B		
	科内ケース会議	A		
義肢製作	大腿義足		A	
	下肢義足		A	
	股義足		B	
	その他の義足		C	
	上腕能動義手		B	
	前腕能動義手		A	
	肩義手		C	
	その他の作業用義手		C	
	作業用自助具		C	
看護	医師の診察の補助			A

科目	課題	カウンターパート氏名	
		Miss シリナン	Mr. ウィチャープ
評価	徒手筋力テスト	A	A
	関節可動域テスト	A	A
	日常生活動作テスト	A	A
	感覚テスト	A	A
	記録と報告	A	A
物理療法	低周波通電療法	A	A
	極短波療法	A	A
	超音波療法	A	A
	パラフィンバス	A	A
	ホットパック	A	A
	過流浴	A	A
運動療法	関節可動域訓練	A	A
	筋力強化訓練	A	A
	神経筋再教育	B	B
	歩行訓練	A	A
義足	適合判定	B	B
	装着訓練	B	B

6-4 教科書・教材整備状況

6-4-1 職業評価分野および職業指導分野

年	教科書・教材名	科目	C/Pの作成関与の有無/状況
1986年	IRCハンドブック	職業リハビリテーション 一般	原稿作成の技術指導を行い、専門家が原稿を作成
1988年	職業リハビリテーションハンドブック1	職業リハビリテーション および評価・指導	専門家が原稿作成し、カウンターパートと内容を確認
	職業リハビリテーションハンドブック2	職業評価・指導	見積り日本申請中
	職業評価・指導業務参考資料集	職業評価・指導	見積り日本申請中
	その他：各種説明資料、フォーム・チェックリスト類をシートで引き渡し済みである。		

注) C/Pの作成関与とは、教材、教科書の内容に直接係わる部分で、タイプ、翻訳等は含まない。

A：専門家が原稿を作成・カウンターパートが翻訳

B：専門家とカウンターパートが共同で執筆・カウンターパートが翻訳

C：専門家がカウンターパートへ教科書・教材作成の技術指導・カウンターパートが単独で執筆

6-4-2 職業準備分野

年	教科書・教材名	科目	C/Pの作成関与の有無/状況
1986年	Job Sheet 旋盤	機械	C
	Job Sheet フライス盤	機械	C

年	教科書・教材名	科目	C/Pの作成関与の有無/状況
1986年	Job Sheet ユニバーサルカッター、バイト研削	機械	C
	Job Sheet 手仕上げ作業 (I)	機械	C
	Job Sheet 手仕上げ作業 (II)	機械	C
	Job Sheet 機械操作の基礎	機械	C
	Job Sheet ガス溶接	金工	C
	Job Sheet アーク溶接	金工	C
	Job Sheet 板金	金工	C
	Job Sheet 金属塗装	金工	C
	Job Sheet 安全	金工	C
	Job Sheet 電気の基礎	組立	C
	木工用実技教科書	木工	C
	実技教科書 簿記	事務	C
	実技教科書 タイプ練習法	事務	C
	実技教科書 事務機器の使い方	事務	C
	MA 2-17 Shape cutting	機械	C
	2-26 Knuring (ローレットがけ)	機械	C
	2-16 Boring (中ぐり)	機械	C
	2-11 Face cutting (表面仕上げ)	機械	C
	2-12 Cylinder cutting (円筒削り)	機械	C
	2-18 Taper cutting (テーパ削り)	機械	C
	2-5 Kind of tool bites (バイトの種類)	機械	C
	2-7 Crinding tools bites (バイトの研削)	機械	C
	2-13 Sholder cutting (段削り)	機械	C
1988年	MU 2-9 Speed of cutting (切削速度)	機械	C
	2-10 Center drilling and holing (センタードリルによる孔あけ)	機械	C
	2-3 How to use lathe (普通旋盤の取り扱い)	機械	C
	2-21~24 ネジ各種	機械	C
	1-3 Filing (ヤスリがけ)	機械	C
	1-4 Layout tools (各種工具の用途)	機械	C

年	教科書・教材名	科目	C/Pの作成関与の有無/状況
1988年	1-10 Tapping (タッピング)	機械	C
	1-13 Tool grinding (タガネ, ドリルの研削)	機械	C

6-4-3 職業訓練分野

年	教科書・教材名	科目	C/Pの作成関与の有無/状況
1984年	薄鉄板の加工	家電修理科	
	電気工作の基礎	家電修理科	
	テスターによる電気回路の測定	家電修理科	
	電流計電圧計による電気回路の計算	家電修理科	
	電子部品の知識と取り扱い	家電修理科	
	電子回路の動作測定	家電修理科	
	FMラジオカセットテープレコーダー	家電修理科	
1985年	照明器具	家電修理科	
	電熱器具の故障修理	家電修理科	
	回転機応用機器の修理 1	家電修理科	
	回転機応用機器の修理 2	家電修理科	
	回転機応用機器の修理 3	家電修理科	
	家庭用オーディオ機器	家電修理科	
	小型電子応用機の故障	家電修理科	
1986年	冷機応用機器の故障	家電修理科	
1987年	測定用発振器の取り扱い	家電修理科	
			すべて専門家の作成したものでC/Pは関与していない。
	基礎的教科の教科書はNISDの教材製作工場で印刷製本され配布されている。最近特に新しい教材を導入した。		

6-4-4 医療リハビリテーション分野

年	教科書・教材名	科目	C/Pの作成関与の有無/状況
	なし		

6-5 機材活用・維持管理状況

6-5-1 供与機材活用状況

(1) 職業評価分野および職業指導分野

供与機材名	台数	使用度			カウンターパートの操作保守能力			備考
		A	B	C	A	B	C	
WAIS 知能検査器	2	○			○			(動作性のみ)
FQテスト器具	1		○		○			(指導継続中)
ワークサンプル検査器具	1			○		○		
タイプライター	1	○			○			

評価基準

使用度

A：訓練に非常に有効に活用している

B：訓練に活用している

C：訓練にあまり活用されていない

カウンターパートの操作保守能力

A：操作方法を確実に習得し、応用が可能

B：基本操作法を習得

C：操作できない

(協力期間内に指導できるか否かを備考欄に注記する)

(2) 職業準備分野

供与機材名	台数	使用度			カウンターパートの操作保守能力			備考
		A	B	C	A	B	C	
旋盤	5	○			○			
卓上ボール盤	1		○		○			
帯鋸盤	1	○			○			
電動鋸	1	○			○			
両頭グラインダー	1	○			○			
カッターグラインダー	1		○		○			
フライス盤	1	○			○			
フットシャー	1	○			○			
電気ドリル	2		○		○			
ツールワゴン	5	○			○			
定盤	1	○			○			
作業台	2	○			○			
ホイス	1	○			○			
工具棚	3	○			○			
黒板	1	○			○			
リードバイス	2							
作業台	1							
卓上精密旋盤	1							
卓上万能彫刻機	1			○	○			
スライス盤用インデックスヘッド	1	○			○			
ベルトサンダー	1	○			○			
交流溶接器	4	○			○			
携帯型ガス溶接器	1	○			○			
乾燥器(溶接棒)	1	○			○			
両頭グラインダー	1	○			○			
卓上ボール盤	1	○			○			
スクリュープレス	1			○	○			
電気ドリル	2	○			○			
ディスクグラインダー	5	○			○			

供与機材名	台数	使用度			カウンターパート の操作保守能力			備考
		A	B	C	A	B	C	
SQUARING SHEAR	1							
ベンディングマシン	1	○			○			
電気ニブラー	1	○			○			
定盤	1							
作業台	3	○			○			
工具棚	2	○			○			
黒板	1	○			○			
整図板一式	1	○			○			
台車	1	○			○			
ガスボンベ用台車	3	○			○			
赤外線乾燥器	2			○	○			
セクションベンチレーション	1	○			○			
ツールワゴン	5	○			○			
踏み台	1		○		○			
作業用イス	10	○			○			
ワイヤーリール	3		○		○			
カーバイドツールグラインダー	1		○		○			
エアークンプレッサー	1	○			○			
作業台	2	○			○			
スポット溶接器	1	○			○			
ロール式折曲機	1		○		○			
ベンディングマシン	1			○	○			
振動ドリル	1		○		○			
手押鉋盤	1	○			○			
自動鉋盤	1	○			○			
丸鉋盤	1	○			○			
角ノミ盤	1	○			○			
フレットソー	1	○			○			
カーバイドツールグラインダー	1	○			○			
カッターグラインダー	1	○			○			
ベンチドリル	1	○			○			
電気卓上ドリル	2	○			○			
ミニルーター	1	○			○			
電動ポータブルサンダー	3	○			○			
作業台	2	○			○			
工具整理棚	3	○			○			
黒板	1	○			○			
セクションベンチレーション	1	○			○			
エアークンプレッサー	1	○			○			
木工プレス	1	○			○			
両頭グラインダー	1	○			○			
クロスカットラウンドソー	1	○			○			
ルーター	1	○			○			
丸鉋盤	1	○			○			
木工彫刻機	1	○			○			
ドライブース	1	○			○			
整図用具一式	1	○			○			
木工旋盤	2	○			○			
木工用作業台	1	○			○			
エアータッカー	1		○		○			
電動式手鉋	1			○	○			

供与機材名	台数	使用度			カウンターパート の操作保守能力			備考
		A	B	C	A	B	C	
ポータブルサンダー	1		○		○			
丸鋸盤	1	○			○			
糸鋸盤	1	○			○			
卓上ボール盤	1				○			
電気ドリル	1				○			
高速小型ドリル	2		○		○			
作業台	2	○			○			
作業用イス	10	○			○			
作業棚	3	○			○			
黒板	1	○			○			
台車	1	○			○			
直流電圧レギュレーター	2							
スライダック	1							
自動ハンダ供給ゴテ								
パーツケース	2							
ツールワゴン	3	○			○			
作業台	3	○			○			
エンジン4ストローク	1	○			○			
カットエンジン4ストローク 2ストローク	2	○			○			
刈払機	1	○			○			
芝刈機	1	○			○			
軸流式ポンプ AXIAL-FLOW	1	○			○			
過流式ポンプ(遠心) (centrifugal)	1	○			○			
耕ウン機	1	○			○			
自転車	3	○			○			
万力	4	○			○			
書庫	2	○			○			
自動二輪車4ストローク 2ストローク	2	○			○			
作業台	2	○			○			
教材整理棚	3			○	○			
ツールスタンド	1	○			○			
台車	1	○			○			
オイルドレイン	1	○			○			
ボルトアンメータテスター	1	○			○			
コイルコンデンサーテスター	1	○			○			
サーキットテスター	2	○			○			
バッテリーテスター	1	○			○			
バリュースプリングテスター	1				○			
コンプレッションゲージ	2							
ディーゼルエンジンタコメーター	1							
電気ドリル	1				○			
卓上ボール盤	1				○			
エアインパクトレンチ	1				○			
図表盤	2	○			○			
トレース台, 整図機械	2	○			○			
オーバーヘッドプロジェクター	1	○			○			
中古ディーゼルエンジン	5	○			○			
中古ガソリンエンジン	5	○			○			

供与機材名	台数	使用度			カウンターパート の操作保守能力			備考
		A	B	C	A	B	C	
ノズルテスター	1				○			
中古バイク用エンジン	10	○			○			
電動タイプライター	2	○			○			
卓上タイプライター	2	○			○			
コピーマシン	1	○			○			
整図板、整図機械	1	○			○			
ライトテーブル	1	○			○			
事務机	10	○			○			
作業用イス	10	○			○			
書類整理ケース	2	○			○			
書類棚	1	○			○			
黒板	1	○			○			
断裁機	1	○			○			
押切り	1	○			○			
作業台	2	○			○			
本棚	1	○			○			
オフセット印刷機	1			○		○		
エレファックス	1			○		○		
卓上型電卓	5	○			○			
ストップウォッチ	1	○			○			
ディスプレイタイプ電卓	5	○			○			
パーソナルコンピューター	1	○			○			
スケジュールボード	2	○			○			
CCTVシステム	1	○			○			

(3) 職業訓練分野

供与機材名	台数	使用度			カウンターパート の操作保守能力			備考
		A	B	C	A	B	C	
トランスミッターおよびレシーバーサ ーキット	1		○		○			
カラーテレビ	1		○		○			
トレーニングテーブル	1	○			○			
携帯用直流電圧計2051-05	2		○		○			
同上 2051-06	3		○		○			
携帯用直流電流計2051-02	1		○		○			
同上 2051-03	3		○		○			
同上 2051-04	2		○		○			
携帯用交流電圧計2051-07	4		○		○			
携帯用交流電流計2053-01	1		○		○			
同上 2053-02	1		○		○			
同上 2053-03	2		○		○			
アナログ電圧計	6	○			○			
LCRメーター	1			○	○			
周波数カウンター	2		○		○			
電界強度計	1			○		○		
RCオーディオ発振器	10	○			○			
同上スペア	5			○	○			
AFオーディオケーブル								

供与機材名	台数	使用度			カウンターパート の操作保守能力			備考
		A	B	C	A	B	C	
FM/AMシグナルゼネレータ	1		○		○			
デジタルマルチメーター	2	○			○			
パターンゼネレーター	10		○		○			
同上スペア-RFケーブル	5		○		○			
VHFスイープマーカージェネレーター	2			○		○		
自動電圧調整機	1	○			○			
可変定電圧DC電源	10	○			○			
二現象オシロスコープ	10		○		○			
同上リードケーブル	10		○		○			
ステレオFMシグナルゼネレーター	2			○	○			
携帯用絶縁試験機	2		○		○			
FM/AMシグナルゼネレーター	10		○		○			
FMリードケーブル	5		○		○			
歪み波計	1			○		○		
テスター	25	○			○			
同上スペアリード線	10	○			○			
マルチメーター	10	○			○			
同上スペアリード線	10	○			○			
卓上ドリル	2	○			○			
作業台スチール製	2	○			○			
グラインダー	1	○			○			
鉄板切断機	1	○			○			
鉄板折り曲げ機	1	○			○			
半導体応用実験装置	10		○		○			
携帯用ラックスメーター	1			○	○			
ウ・ウーハーフラッターメーター	1			○		○		
可変減衰機	3			○	○			
テストボード	15		○		○			
スライド抵抗器	2			○	○			
スライダックス	5	○			○			
スライダックス	10	○			○			
携帯用標準ワットメーター	1			○		○		
携帯用標準ワットメーター	1			○		○		
回転計	2		○		○			
半田吸い取り機	2		○		○			
ブラウン管試験器	1			○		○		
消磁気器	2		○		○			
テープレコーダー	2		○		○			
試験用カセットテープ	2		○		○			
シグナルゼネレーター	25	○			○			
クランプメーター	3		○		○			
トランジスタチェッカー	1		○		○			
ポータブルラジオ	20	○			○			
ポータブルラジオ	20	○			○			
白黒テレビ	15	○			○			
カラーテレビ	15	○			○			
カラー	15	○			○			
ラジオカセットレコーダー	15	○			○			
ハイファイステレオシステム		○			○			
スピーカー	5	○			○			

供与機材名	台数	使用度			カウンターパート の操作保守能力			備考
		A	B	C	A	B	C	
スピーカー	5	○			○			
スピーカー	2	○			○			
ヘッドホン	3		○		○			
ダイナミックマイクロホン	3		○		○			
ステレオラジオカセットレコーダー	15		○		○			
カーステレオ	5		○		○			
ビデオシステムビデオデッキ	19		○		○			
FAN	10		○		○			
ドアチャイム	10		○		○			
インターホン	10		○		○			
ドアユニット	1		○		○			
Flurescent Lamp	5							
Wall Bracket	5							
レフレクターライト	15		○					
換気扇	10		○					
ミキサー	10			○	○			
ハンデーポンプ	5			○	○			
ヘアードライヤー	10		○		○			
Sharpner	2							
テレビアンテナ	9	○			○			
FMアンテナ	3	○			○			
プースター	3		○		○			
ポータブルアンプ	3		○		○			
アラームクロック	10		○		○			
バッテリークロック	5		○		○			
冷蔵庫	5		○		○			
ウォータークーラー	2		○		○			
ラジオ組立キット	30	○			○			
自動洗濯機	5		○		○			
洗濯機二槽式	5		○		○			
スチームアイロン	5		○		○			
ライトスタンド	5	○			○			
ライトスタンド	5	○			○			
真空掃除器	10		○		○			
電気炊飯器	10		○		○			
スナックオーブントースター	10		○		○			
ホットプレート	10		○		○			
電気湯沸かし	10		○		○			
フラッシュライト	10		○		○			
タイマー	10		○		○			
電気剃刀	10		○		○			
一本針工業用ミシン	12	○			○			
工業用ミシン	5	○			○			
身体障害者用ミシン	1	○			○			
ヒーターレススチームアイロン	3			○		○		
ヒニシングボード	1	○			○			
裁断テーブル	2	○			○			
作業台	5	○			○			
胴体のみ マネキン ドレスメーカーモデル	3	○			○			

供与機材名	台数	使用度			カウンターパートの操作保守能力			備考
		A	B	C	A	B	C	
胴体のみ マネキン	3	○			○			
ドレスメーカーモデル								
アイロン台 長丸型バック	10	○			○			
アイロン台 丸型バック	10	○			○			
ラック	2	○			○			
ロッカーケース	5	○			○			
大型鏡	3	○			○			
針探し	2	○			○			
3 脇腰掛	24	○			○			
自動電気アイロン	14	○			○			
アイロン台	12	○			○			
ハンガーラック	2	○			○			
ハンガー	200	○			○			
ハンドカットとネット	2	○			○			
ハサミ研グライNDER	2		○			○		
紙ハサミ	15	○			○			
左ハサミ	5	○			○			
布ハサミ	15	○			○			
大ハサミ	3	○			○			
ピンクボード小型	2	○			○			
布ブラシ	20	○			○			
ブラシ	30		○		○			
重し垂	25	○			○			
重し垂	25	○			○			
小はさみ	24	○			○			
毛ぬきピンセット	24	○			○			
スィングルーレット	100	○			○			
ローウレット	100							
スクリュウパンチ	24							
ゆびぬき	24	○			○			
ミシン針	1000	○			○			
針箱	50	○			○			
チャコ	500	○			○			
曲線定規	24	○			○			
スリーブモザラーバック	5							
スケール	15	○			○			
スケールメジャ	20	○			○			
メータースケール	20	○			○			
スケールインアークス	24	○			○			
テーブ	24	○			○			

(4) 医療リハビリテーション分野

供与機材名	台数	使用度			カウンターパートの操作保守能力			備考
		A	B	C	A	B	C	
電動高低作業台 YOT-801	1	○			○			
木作業台 YOT-545	1	○			○			
機織器セット YOT-6,6S	1	○			○			
黒板436-1236	1	○			○			

供与機材名	台数	使用度			カウンターパート の操作保守能力			備考
		A	B	C	A	B	C	
ADL 訓練用棚 DY-14	1	○			○			
真空ポンプ KI-V	1	○			○			
ボール盤 B13-HITACHI	1	○			○			
帯のこ U-300	1	○			○			
グラインダー GR-31	1	○			○			
カービングマシン KI-M100	1	○			○			
ポータブルドリル BUL-SH 3	1	○			○			
電気オープン KI-100N	1	○			○			
マシン STW-8 B	1	○			○			
マシン (革用) DI-6	1	○			○			
コルセットテーブル YOT-1800	1		○		○			
集塵器 UM-2200	1	○			○			
スクリュープレスKI-M-111	1			○		○		
サンディングマシン K-250	1	○			○			
作業台 KY-550	1	○			○			
工具キャビネット 1100-A	1	○			○			
ハンドジグソー JH-60A	1	○			○			
ギブスカッター 7-12627	1	○			○			
キャビネット B-25	1	○			○			
ポータブルドリル D-6 C	1	○			○			
C-Clamp	3	○			○			
ウォーカー YA-2	1	○			○			
木工万力	1	○			○			
足踏み式のこ	1	○			○			
電動ドリル BUL-SH 3	1	○			○			
金工セット	1	○			○			
電動ドリル D6 C	1	○			○			
アンビル 70-KG	1	○			○			
平行棒 DY-79A	1	○			○			
平行棒 DY-80A	1	○			○			
肋木 DY-203	1	○			○			
リストロール DY-22N	1	○			○			
前腕回旋訓練器 DY-20N	1	○			○			
ショルダーホイール DY-30N	1	○			○			
プーリーウェイト DY-111	1	○			○			
オーバーヘッドフレーム DY-133B	1	○			○			
ボート練習機 DY-108	1	○			○			
自転車エルゴメーター DY-76C	1	○			○			
診察ベッド MD-570	2	○			○			
訓練用階段 DY-87L-1	1	○			○			
鏡 DY-153	1	○			○			
大腿四頭筋訓練器 DY-54A	1	○			○			
ダンベル DY-146	1	○			○			
ダンベルセット DY-148/DY-151	1	○			○			
トレッドミル RG-738	1			○	○			常用していたが現在使用不可
渦流浴 PE-11A	1	○			○			
車椅子 SY-120A	1	○			○			
車椅子 SY-110A	1	○			○			
訓練用ベッド DY130H	1	○			○			
超音波治療器 YET-501	1	○			○			

供与機材名	台数	使用度			カウンターパートの操作保守能力			備考
		A	B	C	A	B	C	
低周波治療器 YET-201	1	○			○			
赤外線治療器 L-206S	1	○			○			
電動間欠牽引器 YET-922	1	○			○			
ホットバック加温器 PE-26N	1	○			○			
パラフィン浴 PE-27A	1	○			○			
ベンチ MD573	2	○			○			
訓練用ベッド MD-570	2	○			○			
デジタル握力計1270	1	○			○			
シャーカステン MS-JI	1	○			○			
背筋力計	1	○			○			
デジタルヘルスマーター D717-1	2	○			○			
肺活量計	1		○		○			
血圧計 No302	1	○			○			
視力テスト No20077	1	○			○			
診察台 MD-571	1	○			○			
小型消毒器 SS-35A	1	○			○			
医療器戸棚 ML-30	1	○			○			
救急蘇生セット KG-1110	1			○	○			常用するものにあらず
タンカ MG-30	2			○	○			常用するものにあらず
血圧計 TANAKA300V	1	○			○			
ピンチメーター EP-3D	1	○			○			
人体模型腕部 NS-15	1	○			○			
人体模型手部 NS-13	1	○			○			
ヒートガン	1	○			○			
EMGバイオフィードバック	1	○			○			
ストップウォッチ	2	○			○			
本棚	1	○			○			
キャビネット 300-7800	3	○			○			
医学的テスト用机 SD-S167 D33	1	○			○			
丸椅子 CR-F70	1	○			○			
扇風機 (診察室用)	1	○			○			
遮蔽用スクリーン SN-C693	3	○			○			
ゴミ入れ	2	○			○			
懸垂滑車	1	○			○			
背もたれ付き椅子 No60	5	○			○			
ツールワゴン MT-KW	1	○			○			
身長計 PH	1	○			○			
棚 SE-P06356	4	○			○			
事務用机 NK-560T	4	○			○			
洗面器たて NK-560T	1	○			○			
医学的テスト用椅子 CR-35D	1	○			○			
電気式ろくろ TP-2	1			○		○		
手動式ろくろ 220×85	1	○			○			
手動式ろくろ 250×100	2	○			○			
ヒーターユニット	1	○			○			
電気窯	1		○			○		R/D終了時までに技術移転予定
極超短波治療器 ME-725	1	○			○			
砂囊用キャスタ付きワゴン	1	○			○			
X線フィルム用鉄製棚	1	○			○			
洗面器およびキャスタ付きスタンド	1	○			○			

供与機材名	台数	使用度			カウンターパートの操作保守能力			備考
		A	B	C	A	B	C	
スタンド MY-1061	1	○			○			感染防止等の問題未解決 感染防止等の問題未解決 感染防止等の問題未解決
縦型芯出し治具	1	○			○			
医療器具用加圧滅菌器	1	○			○			
Instulmental Cup Board	1	○			○			
バーベル用椅子	1	○			○			
バーベルセットおよびケース	1	○			○			
腹筋訓練台	1	○			○			
簡易外科処置用ランプ	1			○	○			
ステンレスタンク	1			○	○			
簡易外科処置用具セット	1			○	○			
タイプライター SG3N	1	○			○			
タイプライター用ワゴン	1	○			○			
革すき器 6-IN-1	1		○			○		
ポリエステル用形成治具	1		○			○		
仕上げ機 (敬愛)	1		○			○		
ナイロン流動槽	1		○			○		
手動タイプライター	1		○		○			
訓練用台	1	○			○			

6-5-2 故障および修理状況

職業準備分野

機材名 (メーカー・モデル)No.	故障年月	故障状況	故障原因	措置	備考
ドライブス BB-15 イワタ	1987年4月	モーターの焼けつき。	レバースイッチの操作ミスと考えられる。不完全な接続。	タイ側の予算により修理。	
自動鉋盤のエレクトリックカウンター KV-N 600	1986年12月	カウンターの値が異常値を示す。	電気系統の短絡による。	不良コードの交換およびカウンターの交換。	関東物産機材修理班による。
オフセット印刷機 リコー 1010	1987年6月	紙送りが悪い。	紙送りゴムローラーが劣化。	現地業務費によりゴムローラーを交換。	
パーソナルコンピューター NEC APCIII	1987年6月	ディスクが機能しない。	落雷によるICの故障。	保証期間につき修理依頼。	

医療リハビリテーション分野

機材名 (メーカー・モデル)No.	故障年月	故障状況	故障原因	措置	備考
けんいん器 ヤエスリハビリ機 YET-922	1985年10月	けん引張力が正確でない。また間けつけん引機能が働かない。	不明。	関東物産(納入業者)のアフターサービスにより日本にて修理の後、送り返される。	
デジタル握力計 TAKEI 1270&6	1985年10月	握力表示値が正確でない。	不明。	同上。	
マイオトレナー	1987年5月	メーターが正常に作動しない。	電極およびその周辺の部品の故障と思われる。	同上。	

6-6 カウンターパートの技術移転進捗状況等調査結果および評価

6-6-1 職業評価分野および職業指導分野

カウンターパート氏名(聞き取り調査対象者)		Ms. バニー, Mrs. ルンナバー, Ms. ルジナン, Mrs. スミトラ	
調査項目	調査結果	評価	
<p>技術移転進捗状況</p> <p>(1) 技術移転目標達成度(理論面, 実習面, 機材操作, 教材作成 etc.)をどのようにとらえているか?</p> <p>(2) 技術移転方法・期間等について問題点はないか?</p> <p>(3) 協力期間延長の要否について? 延長必要の場合, 期間および具体的技術移転対象項目は?</p>	<p>(1) 職業評価: 以前タイでなかった分野であるだけに, 理論面・実習面などでもっとつっこんだことを習う機会がほしかった(現時点の達成率80%)。 職業指導: 人数の点ではほぼ目標を達成したが, 職業指導の技術・方法の上ではまだまだだと思っている。</p> <p>(2) 職業評価: 職業評価・指導課の人数が少ないだけに, 日常業務に追われて体系的に習う機会は少なかったが, 方法は問題ない。期間は短すぎる。 職業指導: 技術移転方法は特に問題はなかったが, まだまだ足りないと思っている。IRCがスタートして, 外部の事業所等がIRCの存在に気づいてきたのが後半のことだったので, 期間は短すぎた。もっと外部との調整のための期間が必要だった。</p> <p>(3) 職業評価: 延長して, もっとIRCに適切な方法をケーススタディやフォローアップを通じて一緒に検討したい。</p>	<p>(1), (2), (3) 職業評価・指導とも, いままでの基礎的な技術の移転についてはほぼ完了したものとみている。しかし, 現実面でなかなか思うようにリハビリテーションが運ばれていないというような面などから, さらに掘り下げた内容のもの, より有効なものについての技術移転を切望していると判断した。しかし, 職業評価・指導は社会制度や文化・慣習などと関係が深い部分が多く, 現段階で, しかも日本人が, さらに移転できる技術には制限があり, 極めて難しいと考える。 カウンターパートの問題意識・意欲は大いに評価できるものである。</p>	

調 査 項 目	調 査 結 果	評 価
<p><u>訓練内容</u></p> <p>(4) 現在の訓練内容は、社会ニーズに合致していると思うか？ 改善点があるとすればどのような内容か？</p>	<p>(4) はっきり言って合っているとは言えない。 理由：① カリキュラムが、タイの社会やクライアント中心になっているとは言えない。 ② 施設のIRCとバンコクでは違う。まして地方とでは違いすぎる。 ③ リハビリテーションの中で1人1人のクライアントに目標を完全に持たせ得ているとは言えない。 ④ リハビリテーションがスムーズでなくクライアントにフリーな時間が多すぎる。 改善策：① 人数が少ないので増員すべきである。 ② 各スタッフにリハビリテーションの上で信念をもたすべきである。 ③ IRCの目的・目標をもっと皆に徹底する。 ④ タイの社会的ニーズという面では、障害者差別の問題がかなり大きく、事業所等はいろいろ経済的問題をかかえており、施設入所期間はできるだけ少ないのを望んでいるため、現在一番必要なのは労災病院および保護雇用の場ではなからうか。</p>	<p>(4) このような問題が出てきたという事自体が、評価できると考えている。つまり、まだ基礎的段階ではあるが、当面その範囲の中で職業リハビリテーションに真剣に取り組む推進してきたことの1つの証であるように思う。程度の差こそあれ、日本でも同じような問題を抱え、また真の解決を見ていない要素もかなり含まれているのである。</p>
<p><u>実施体制</u></p> <p>(5) 訓練実施体制上（組織、予算、募集活動、工場実習先の選定、訓練資材の調達、卒業生のための就職活動側面的etc.）の問題はないか？</p>	<p>(5) 組織的に労働局の施設であるのにリハビリテーションの上で医療問題が大きすぎる。まだ医療ケアが十分でない段階で職業準備や職業訓練に入れざるを得ないケースもある。</p>	<p>(5) 縦割り行政の問題・制度上の問題・他との連携の問題などタイ社会と関係の深い問題がかなり多く、労働局レベルなら協力可能かもしれないが、IRCレベルではどうしようもない場合も実施体制の上でかなり出てきている。従って、当プロジェクトの中では当面この実施体制で周囲の動向を見守っていくのが妥当と考える。</p>
<p><u>日本側投入実績</u></p> <p>(6) 供与機材の内容およびレベル等について問題点はないか？（メンテナンス、管理状況）</p> <p>(7) ローカルコスト負担について日本側に対して要望はないか？（例えば教科書作成費etc.）</p>	<p>(6) 特に問題はない。</p> <p>(7) 特にない。</p>	

調 査 項 目	調 査 結 果	評 価
<p>日本における研修</p> <p>(8) 研修期間および内容についてどのように評価しているか?</p> <p>(9) 研修成果は? その成果をどのように活用しているか?</p> <p>(10) 日本語研修についてどのように評価しているか?</p>	<p>(8) 期間が短すぎて、一般的に見てくただけになってしまい、内容等がしっかりつかめなかった。また自分の思っていた研修内容とかなりずれていることがあるので、できればIRCを知っている人にプランを立ててもらってほしい。また、研修制度として、1回研修に行き帰って来て、自国と比較した上で問題が発生したらもう1回行くといったようなフォローアップ制度がほしい。</p> <p>(9) 特に指導業務の上などで活用している。しかし、まだ十分でないので本などで補足しながら業務をすすめている。</p> <p>(10) 日本語はむずかしい上に、期間が短くつめこみすぎの感がある。3ヵ月では短すぎる。せめて5～6ヵ月はほしかった。</p>	<p>(8), (9), (10) 日本研修の中では内容をしっかりつかんでくることを第1に考えたい(タイにそれが当面通用するにせよしないにせよ)。プランの立て方には本人の意見・希望も十分に考慮することが望ましい。ただし、研修員を受け入れる側との調整や海外の研修員の意見・希望を事前にどの程度までキャッチできるかなどの問題があり必ずしも本人の希望通りにならない場合もありうることは承知しておくべきであろう。それにしても研修である以上はより効果が上がるような検討をしていくことが必要である。</p>
<p>一般的評価</p> <p>(11) 第三国実施プロジェクトとの比較において当プロジェクトの特徴(長所および短所)は?</p>		

6-6-2 職業準備分野

カウンターパート氏名(聞き取り調査対象者)		Mr.ダムロンサク, Mr.ソンボーン, Mr.ペラチャイ, Mr.ウィチッド	
調査項目	調査結果	評価	
<p>技術移転進捗状況</p> <p>(1) 技術移転目標達成度(理論面, 実習面, 機材操作, 教材作成 etc.)をどのようにとらえているか?</p> <p>(2) 技術移転方法・期間等について問題点はないか?</p> <p>(3) 協力期間延長の要否について? 延長必要の場合, 期間および具体的技術移転対象項目は?</p>	<p>(1) 日本側による技術移転がなお必要である。</p> <p>(2) IRCとしては, 日本の技術協力により, 優れた援助を受けてきた。しかしながら期間はあまりにも短く, 協力期間の延長を望む。</p> <p>(3) 特に小型エンジン関係で2年間の延長が必要である。また, 現在実施中の調査結果に基づいて開設される新トレーニングコースに関しても援助願いたい。</p>	<p>(1), (2), (3) 先端技術を除き一般的な技術上の指導は必要ない。しかし, 個々トレーニングの職業上の障害の除去に着目して適切に職業準備指導が実行されているかという観点からは, 今なお不十分と言わざるを得ない。</p> <p>小型エンジンコースについては経過は非常に順調であり, 今後も定着してゆくのは確実である。実習場・専門家派遣を含め前向きに検討すべきである。他の新規職種については調査結果待ちである。</p>	
<p>訓練内容</p> <p>(4) 現在の訓練内容は, 社会ニーズに合致していると思うか? 改善点があるとすればどういう内容か?</p>	<p>(4) 現在の訓練内容は, 社会的ニーズと合致していると考えられる。しかし, 労働市場により合致させるために, たとえば革製品製作等の新コース開設が求められている。</p>	<p>(4) 第3次産業に属す職種については, 職業準備の範疇で取り扱うほうが融通性がある。</p>	
<p>実施体制</p> <p>(5) 訓練実施体制上(組織, 予算, 募集活動, 工場実習先の選定, 訓練資材の調達, 卒業生のための就職活動側面的etc.)の問題はないか?</p>	<p>(5) IRC入所生は, 訓練期間中家族への仕送りができず, 財政上の理由で訓練が継続できなくなる場合がある。</p>	<p>(5) 経済上または雇用主側の理由で長期に訓練を受けるのが困難なケースが多い。</p>	
<p>日本側投入実績</p> <p>(6) 供与機材の内容およびレベル等について問題点はないか?(メンテナンス, 管理状況)</p> <p>(7) ローカルコスト負担について日本側に対して要望はないか?(例えば教科書作成費etc.)</p>	<p>(6) 特に問題はない。</p> <p>(7) 特にない。</p>	<p>(7) 緊急性のある機材等については現地業務費で対応可能であった。</p>	
<p>日本における研修</p> <p>(8) 研修期間および内容についてどのように評価しているか?</p> <p>(9) 研修成果は? その成果をどのように活用しているか?</p> <p>(10) 日本語研修についてどのように評価しているか?</p>	<p>(8) 内容と期間については良好で適切である。</p> <p>(9) 研修については十分であり, 期間中に様々なアイデアを得ることができた。</p>	<p>(8), (9), (10) 職業リハビリテーション訓練指導員に対する日本研修内容は, 各自の専門分野(機械, 木工等)に関する部分と, 身障者訓練に関わる部分に大別できる。</p> <p>本プロジェクトでは, 各指導員の専門技術は配置された時点で確立されている建前となっているので, 前者は日本研修の主要目的とはなり得ず, 後者に重点が置かれた。しかし, 前者に対する要望も強かったため, カウンターパートの希望を入れた形で双方の要素を含めた研修スケジュールが組まれた。</p> <p>また, 日本語研修は日常のコミュニケーションを円滑にする上で非常に役立っている。</p>	

調 査 項 目	調 査 結 果	評 価
<p>一般的評価</p> <p>(1) 第三国実施プロジェクトとの比較において当プロジェクトの特徴(長所および短所)は?</p>	<p>(1) 当プロジェクトIRCは、タイ労働局のみ後援している。他の省庁との協力関係ができれば、より効果的に機能し得るようになるであろう。</p> <p>また、労働法、福祉法等の、リハビリテーションを進める上での条件整備が立ち遅れている。</p> <p>日本においては、ハイテクノロジー自体が障害者の訓練と業務を創り出しており、タイ国の現状と比較して有利な条件下にある。</p>	<p>(1) 長所：対象者を労災被災者に限定し、障害を切断中心としたため、復職の実績が上がりやすい。モジュールを障害者訓練に応用して、ニーズに合わせてフレキシブルに個別訓練カリキュラムの作成が可能となっている。</p> <p>短所：医療が不十分なケースに対して訓練を実施せざるを得ない場合があり、リハビリテーションの基本的なプロセスが乱されている。</p>

6-6-3 職業訓練分野

カウンターパート氏名(聞き取り調査対象者)		Mr.スラチャイ, Mr.マンコン
調査項目	調査結果	評価
<p><u>技術移転進捗状況</u></p> <p>(1) 技術移転目標達成度(理論面, 実習面, 機材操作, 教材作成 etc.)をどのようにとらえているか?</p> <p>(2) 技術移転方法・期間等について問題点はないか?</p> <p>(3) 協力期間延長の要否について? 延長必要な場合, 期間および具体的技術移転対象項目は?</p>	<p>(3) 小型エンジンおよび冷凍空調部門での協力延長をのぞむ。</p>	<p>(1) モジュール訓練の基礎的なことが定着しつつあるものの応用がまだまだ未熟である。例えば測定機の測定原理を理解しないで使用するので応用面が広がらない等の問題がある。</p>
<p><u>訓練内容</u></p> <p>(4) 現在の訓練内容は, 社会ニーズに合致していると思うか? 改善点があるとすればどのような内容か?</p>	<p>(4) 社会ニーズに合致していると思われる。</p>	<p>(4) 訓練生の増加に対応するスペースがないのが現状であり, 日本方式の作業台を向かい合わせに配置すれば2倍の収容スペースがあるがタイでは受け入れるのが困難なようである。</p>
<p><u>実施体制</u></p> <p>(5) 訓練実施体制上(組織, 予算, 募集活動, 工場実習先の選定, 訓練資材の調達, 卒業生のための就職活動側面的etc.)の問題はないか?</p>	<p>(5) 組織: 入所就職すべて職業指導の指示ケース会議の決定による。 就職: 求人就職の情報が入手できにくい。 予算: 少ない。 IRCの予算が少なく, 訓練生のための求人就職の情報が入手しにくい等まだまだ問題が多い。</p>	<p>(5) バンコクから遠隔の場所であり情報収集や教材の調達が困難である。また, DOL内部の情報が流れにくい。</p>
<p><u>日本側投入実績</u></p> <p>(6) 供与機材の内容およびレベル等について問題点はないか?(メンテナンス, 管理状況)</p> <p>(7) ローカルコスト負担について日本側に対して要望はないか?(例えば教科書作成費etc.)</p>	<p>(6) 機材は可能な限り現地で現地製を購入してほしい。</p> <p>(7) 特にない。</p>	<p>(6) 現地調達の方が, アフターサービスが保証され, 部分品が入手容易である点で, 効果的である。</p>
<p><u>日本における研修</u></p> <p>(8) 研修期間および内容についてどのように評価しているか?</p> <p>(9) 研修成果は? その成果をどのように活用しているか?</p> <p>(10) 日本語研修についてどのように評価しているか?</p>	<p>(9) 役立っている。日本人の行動が理解できるようになった。でもスケジュールに一貫性がなかったことが惜まれる。</p> <p>(10) 日本語は難しい。</p>	
<p><u>一般的評価</u></p> <p>(11) 第三国実施プロジェクトとの比較において当プロジェクトの特徴(長所および短所)は?</p>		

6-6-4 医療リハビリテーション分野

カウンターパート氏名(聞き取り調査対象者)		Mr.スラデジ, Mr.ソムサック, Ms.シリナン, Mr.ヤンヨン, Mr.ウィチャーン	
調査項目	調査結果	評価	
<p>技術移転進捗状況</p> <p>(1) 技術移転目標達成度(理論面, 実習面, 機材操作, 教材作成 etc.)をどのようにとらえているか?</p> <p>(2) 技術移転方法・期間等について問題点はないか?</p> <p>(3) 協力期間延長の要否について? 延長必要の場合, 期間および具体的技術移転対象項目は?</p>	<p>(1) ほぼ目標に達しているが, より理論面での充実が必要である。特に, エキスパートは医療リハビリテーション全体のコーディネーターとしての役割に時間をとられ, OTそのものに対する技術移転は必ずしも十分とは言えない。また, 義肢装具士に対する技術移転については時間が短すぎ, 機材の使用法に関する分野しかカバーできなかった。PTについてはほぼ技術移転は達成された。</p> <p>(2) 日本・タイともに知識, 技術(ソフトウェア)より機材(ハードウェア)に注意が集まっていたようであるが, IRCが正しい方向に進んでいるならば5年で十分である。</p> <p>(3) 義肢装具製作, 作業用自助具製作の分野に関して少なくとも1年間の延長が必要であり, 延長するにしても, IRC自体のシステムを改善してから延長すべきである。</p>	<p>(1) 医療リハビリテーションスタッフはすべて大学およびその他の専門学校でこの分野を学んだ者たちであり, 業務遂行に必要な技術はすでに持っている。むしろ関連職種との協調を含めたりハビリテーションシステムの整備が重要である。しかし, カウンターパートは常に新しい知識に対する欲求を持っている。義肢装具士に関しては技術移転期間が短すぎ, 十分目標に達したとは言えない。</p> <p>(2) IRCは職業リハビリテーションセンターである。したがってその範囲内に限られた医療リハビリテーションを行うのであれば5年で十分であろうが, それ以上の部分となると, もう少し時間が必要と思われる。</p> <p>(3) 1987年5月から常勤義肢装具士が雇用されたばかりで, この部分の協力継続は必要と考えられる。しかし, IRCは職業リハビリテーションセンターであるので医療リハビリテーションの充実が必要だが, いろいろな制限があると思われる。</p>	
<p>訓練内容</p> <p>(4) 現在の訓練内容は, 社会ニーズに合致していると思うか? 改善点があるとすればどのような内容か?</p>	<p>(4) 当初計画からすれば, 合致しているが, 今後の社会的ニーズを考えれば改善の必要がある。現在のIRCでは, タイにおけるすべての被災労働者の5%以下しか対応していないにもかかわらず, すでにIRC医療リハビリテーション部門は手一杯である。多数の入所者に対応するスタッフの増員, 施設・建物・機材の追加, 入所者募集システムの改善が早急に必要である。</p>	<p>(4) 被災労働者の5%という数字は当初計画どおりだが, それ以上に医療リハビリテーションを中心としたニーズが高いのが現状である。このプロジェクトだけでは医療リハビリテーション中心のケースへの対応は困難と考えられる。医療リハビリテーション専門のセンター・労災病院の充実が必要であろう。</p>	
<p>実施体制</p> <p>(5) 訓練実施体制上(組織, 予算, 募集活動, 工場実習先の選定, 訓練資材の調達, 卒業生のための就職活動側面的etc.)の問題はないか?</p>	<p>(5) 一応の水準, 内容に達しているが, 今後の社会的ニーズを考えればあらゆる面での改善が必要である(多すぎる入所者, 限られた予算での材料の供給システム, 義肢部品のクォリティーの低さ等)。また手術医療処置を終えてない入所生の問題もある。</p>	<p>(5) タイ側運営体制の問題であるが, 改善についての日本側の慎重なアドバイスが必要である。</p>	
<p>日本側投入実績</p> <p>(6) 供与機材の内容およびレベル等について問題点はないか?(メンテナンス, 管理状況)</p>	<p>(6) 日本より直輸入の機材が多く, メンテナンスについて不安がある(スペアパーツ, 修理の問題, タイ国内に代理店がないこと等)。</p>	<p>(6) 現地購入できるものは現地購入とすべきであろう。</p>	

調 査 項 目	調 査 結 果	評 価
(7) ローカルコスト負担について日本側に対して要望はないか? (例えば教科書作成費etc.)	(7) 教科書(英文参考書)購入費・セミナー開催費・調査研究活動費(労働者の握力・つまみ力・知覚調査, 腰痛対策など)・義肢関係パーツ供給費等を要望する。	(7) 英文教科書(医学書)は直接カウンターパートに役に立つものであり効果的な技術移転手段の1つである。またセミナー・調査に関する費用負担は当プロジェクトのみでなくタイ国内リハビリテーション関係者にとって非常に役立つものである。クオリティーの高い義肢パーツは残念ながらすべて輸入品でありタイ予算での購入は無理であるので是非おねがいがいる。
<p>日本における研修</p> <p>(8) 研修期間および内容についてどのように評価しているか?</p> <p>(9) 研修成果は? その成果をどのように活用しているか?</p> <p>(10) 日本語研修についてどのように評価しているか?</p>	<p>(8) 中部労災病院での2ヵ月の研修は長すぎた。1ヵ月で十分であった。多くの病院を見学できて、日本のリハビリテーションシステムを理解するのにとても役立った(PT)。</p> <p>4ヵ月の研修を行ったが、さらにあと8ヵ月の研修が予定されているため今は期間についてなんとも言えない(医師)。</p> <p>期間が短く技術研修には不十分であった(OT)。</p> <p>期間はちょうど良い。タイと日本の義肢に関する知識, テクニックの違いを学ぶことができた(義肢装具士)。</p> <p>(9) 日本の職員は忙しく, 技術指導の時間を十分に持つことができず残念だった。日本の充実した医療補償制度を学べたのでタイにおけるこの問題の解決に役立てたい(PT)。</p> <p>よく活用している。特に義肢関係の研修は有効でありIRCの業務にいかされている(医師)。</p> <p>新しいテクニックと知識がタイにおける適正義肢の製作に役立つ(義肢装具士)。</p> <p>(10) 3ヵ月間の日本語研修は大変役に立った。日本中どこでも行けるようになった(PT)。</p> <p>3ヵ月間の日本語研修では専門用語の理解は不十分で, 会議等の理解ができなかった(OT)。</p> <p>日常生活用としては学ぶ価値はある(医師)。</p>	<p>(9) 日本研修の結果はよくいかされているが, プロジェクト後半に研修に出た者の方が結果が良いようである。これは, プロジェクト前半はどうしてもリハビリテーション一般の研修が多く, IRCの実際の業務とかけはなれることが多かったためと考えられる。後半に出発したカウンターパートたちがよりIRCの業務に密接な研修を行えたと言える。</p> <p>(10) 日本語研修は, 日常生活のためであり, それ以上でも以下でもない。そのため技術用語までは無理と考える。</p>
<p>一般的評価</p> <p>(11) 第三国実施プロジェクトとの比較において当プロジェクトの特徴(長所および短所)は?</p>	<p>(11) 比較はできないが, IRCは被災労働者に対するものであり, 自信を持って生産的な人間として社会に帰すことをゴールとしている。</p> <p>長所: 医療リハビリテーションと職業リハビリテーションの両方のセクションが共同して機能することが特徴。医療リハビリテーションと職業リハビリテーションは分離している方がリハビリテーション効果は完全になる。</p> <p>短所: 被災労働者のみを対象にしている。</p>	<p>(11) 医療リハビリテーションと職業リハビリテーションの両セクションが共存していることが長所であり短所でもある。</p> <p>より充実した医療リハビリテーションセンター・病院が建設されればIRCは職業リハビリテーションセンターとしての機能を発揮できるであろう。</p>

7. 日本側投入実績

7-1 専門家派遣

7-1-1 長期専門家派遣

(1) チーフアドバイザー

米川 一 充 (昭和59年10月3日～昭和62年2月16日)

佐久間 昭 明 (昭和62年2月11日～昭和64年2月22日)

(2) 業務調整員

青木 利 道 (昭和59年10月3日～昭和62年10月2日)

北島 隆 雄 (昭和62年9月24日～昭和64年2月22日)

(3) 専門家

1) 職業評価

原 田 豊 治 (昭和59年11月6日～昭和61年11月5日)

石 黒 豊 (昭和61年10月22日～昭和64年2月22日)

2) 職業指導

穂 坂 由喜男 (昭和59年11月6日～昭和62年11月5日)

3) 職業準備

加 藤 民 雄 (昭和59年11月6日～昭和61年11月5日)

伊 藤 豊 (昭和61年10月22日～昭和64年2月22日)

4) 職業訓練

気賀沢 恒 和 (昭和59年10月3日～昭和62年3月2日)

倉 橋 静 雄 (昭和62年2月20日～昭和64年2月22日)

5) 作業療法

川 端 健 治 (昭和59年10月3日～昭和62年10月2日)

樋 浦 功 (昭和62年9月26日～昭和64年2月22日)

6) 理学療法

村 瀬 正 男 (昭和63年2月23日～昭和64年2月22日)

7-1-2 短期専門家派遣

(1) IRCセミナー

松 井 亮 輔 (昭和61年9月20日～昭和61年9月27日)

(2) 視聴覚教材作成

八 木 高 行 (昭和62年5月26日～昭和62年6月25日)

- (3) 木工 (職業準備)
すぎもとひろし
 杉本博 (①昭和60年10月1日～昭和60年10月31日)
 (②昭和60年12月22日～昭和61年1月21日)
- (4) 電気 (職業準備)
あさりこうじ
 浅利幸司 (昭和62年2月23日～昭和62年3月22日)
- (5) 機械 (職業準備)
くべたひであき
 久保田秀明 (昭和62年2月23日～昭和62年3月22日)
- (6) 洋裁 (職業訓練)
たつくちきょうこ
 辰口鏡子 (①昭和60年3月31日～昭和60年4月20日)
 (②昭和60年7月29日～昭和60年8月28日)
 (③昭和60年11月6日～昭和60年12月5日)
 (④昭和61年5月14日～昭和61年6月10日)
- (7) 農業機械 (職業訓練)
たかほし たつ せい
 高橋辰栄 (昭和62年9月29日～昭和62年11月7日)
- (8) 自動二輪車 (職業訓練)
わかまつみちひろ
 若松道博 (昭和62年9月29日～昭和62年11月28日)
- (9) 理学療法
すがのみのる
 菅野稔 (昭和61年4月26日～昭和61年5月24日)
にしむらたみこ
 西村多美子 (昭和62年6月20日～昭和62年7月19日)
- (10) 医療リハビリテーション
なかじまあきお
 中島昭夫 (①昭和60年11月6日～昭和60年11月20日)
 (②昭和61年12月6日～昭和61年12月20日)
 (③昭和62年7月5日～昭和62年7月19日)
- (11) 義肢装具製作
にしおとしみ
 西尾徹実 (昭和62年5月9日～昭和62年8月7日)
- (12) 義肢装具医療リハビリテーション
あおやまたかし
 青山孝 (昭和62年7月5日～昭和62年8月25日)

7-2 研修員受け入れ

7-2-1 研修員受け入れ人数

年度	区分	高級	準高級	一般	合計
		(名)	(名)	(名)	(名)
58年度		0	0	2	2
59年度		0	1	4	5
60年度		0	0	3	3
61年度		0	0	5	5
62年度		0	0	5	5
63年度		0	1	3	4
合計		0	2	22	24

7-2-2 分野別受け入れ実績

分野	人数(名)
職業評価分野および職業指導分野	2
職業準備分野	5
職業訓練分野	4
医療リハビリテーション分野	7
その他	6
合計	24

7-3 機材供与

7-3-1 供与機材

(単位：千円)

	購送額	現地調達額	合計額
59年度	11,577	1,653	13,230
60年度	9,837	976	10,813
61年度	20,518	2,099	22,617
62年度	52,175	7,966	60,141
63年度 (予定額)	16,890	23,556	40,446
合計	110,997	36,250	147,247

7-3-2 携行機材

(単位：千円)

	購送額
59年度	4,888
60年度	2,619
61年度	4,082
62年度	6,271
63年度	611
合計	18,471

注：なお供与機材・携行機材とも機材引き取りに要した日数は、空送で約2週間、海送で44.7日であった。

7-4 ローカルコスト負担

7-4-1 年度別支出実績

(単位：千円)

	内 訳 額	合計額	
59年度	現地業務費定額分	1,380	2,987
	現地語教科書作成費	1,607	
60年度	現地業務費定額分	2,880	5,138
	現地語教科書作成費	1,836	
	技術普及広報費	422	
61年度	現地業務費定額分	2,890	4,356
	現地語教科書作成費	1,011	
	技術普及広報費	455	
62年度	現地業務費定額分	3,060	7,488
	現地業務費臨時支給分	3,264	
	技術普及広報費	1,164	
63年度 (予定額)	現地業務費定額分	2,475	13,075
	現地業務費臨時支給分	3,124	
	現地語教科書作成費	1,648	
	技術普及広報費	899	
	現地研究費	4,929	
合 計		33,044	

7-4-2 項目別支出実績

(単位：千円)

項目	額
現地業務費	19,073
(定額分)	(12,685)
(臨時支給分)	(6,388)
現地語教科書作成費	6,102
技術普及広報費	2,940
現地研究費	4,929
合計	33,044

7-5 調査団派遣

- (1) 事前調査団 (松本団長) (昭和58年3月13日～3月26日)
- (2) 実施協議調査団 (米川団長) (昭和59年2月19日～2月25日)
- (3) 計画打合せ調査団 (田宮団長) (昭和60年2月14日～2月21日)
- (4) 巡回指導調査団 (永田団長) (昭和60年11月13日～11月20日)
- (5) 計画打合せ調査団 (永田団長) (昭和61年12月13日～12月21日)
- (6) 巡回指導調査団 (矢追団長) (昭和62年11月25日～12月3日)

8. タイ側によるエバリュエーション

Document No 1

Dispatch of Japanese Long-term Experts.

Field	Calendar Year							
	1984	1985	1986	1987	1988	1989		
1. Chief Advisor 1 st 2 nd	10/3 ←		(+)	2/16 2/12 ←			→ 2/22	
2. Coordinator 1 st 2 nd	10/3 ←		(+)	10/2 9/24 ←			→ 2/22	
3. Vocational Guidance	11/6 ←		(+)	11/5 →				
4. Vocational Evaluation 1 st 2 nd	11/6 ←		11/5 10/22 ←		(+)	→ 2/22		
5. Vocational Training 1 st 2 nd	10/3 ←		(+)	9/23 2/20 ←			→ 2/22	
6. Work Preparation 1 st 2 nd	11/6 ←		11/5 10/22 ←		(+)	→ 2/22		
7. Occupational Therapy 1 st 2 nd	10/3 ←		(+)	10/2 9/26 ←		→ 2/22		
8. Physical Therapy					2/23		→ 2/22	

(Note) (+) : Extension of Assignment.

Dispatch of Japanese Short-Term Experts.

Field	Calendar Year		
	1985	1986	1987
1. Dress making	7/29-8/28 11/6-12/5	5/14-5/10	
2. Wood work	10/1-10/30 12/22-1/21		
3. Medical Rehabilitation	11/6-11/13	12/7-20/12	6/7-20/7
4. Physical Therapy		4/26 - 5/24	6/20-7/19
5. Seminar		9/20-9/26	
6. Machine work			2/23-3/20
7. Electronics			2/23-3/20
8. Prosthesis			5/12-8/7
9. Audio-visual			5/26-6/25
10. Medical Rehabilitation(Prosthesis)			7/6-7/24
11. Motorcycle Engine			9/29 - 11/28
12. Agricultural Engine			9/29-11/7

Dispatch of Japanese Survey Team

Calendar Year	1982	1983	1984
<p>1st Preliminary Survey Team</p> <ul style="list-style-type: none"> -L. Mr. Hisayoshi Senza - Mr. Hiroshi Yamashita - Mr. Yoshiaki Otsuki - Dr. Akio Nakajima - Mr. Yoshifusa Shikama 	<p style="text-align: center;">← 11/16-11/26 →</p>	<p style="text-align: center;">← 3/13-3/26 →</p>	
<p>2nd Preliminary Survey Team</p> <ul style="list-style-type: none"> -L. Mr. Kumihiro Matsumoto - Mr. Hideshi Hoshi - Mr. Mitsuoyoshi Coto - Dr. Akio Nakajima - Mr. Hajime Osawa - Mr. Byosuke Marui - Mr. Tomochika Uchida 			

Calendar Year	1982	1983	1984
<p>Basic Design Study Team</p> <ul style="list-style-type: none"> -I. Mr. Shoji Shige - Mr. Ryosuke Matsui - Mr. Yoshifusa Shikama - Mr. Kazuaki Itoh - Mr. Kazuo Tsunetomi - Mr. Hideo Matsuda - Mr. Akio Oya - Mr. Masafumi Kurihara 		<p style="text-align: center;">↔ 5/23-6/31</p>	
<p>4th Survey Team</p> <ul style="list-style-type: none"> -I. Mr. Shusaku Yasui - Mr. Yoshifusa Shikama - Mr. Kazuaki Itoh - Mr. Masafumi Kurihara 		<p style="text-align: center;">↔ 8/16-8/25</p>	

Calendar Year	1982	1983	1984
<p>Japanese In-depth Survey Group for Technical Cooperation</p> <ul style="list-style-type: none"> -L. Mr. Nobuhiro Uchida - Mr. Ryoosuke Matsui - Mr. Yukio Hosaka - Mrs. Kyoko Tatsuguchi - Mr. Tsunekazu Kigasawa - Mr. Kenji Kawabata <p>Japanese Implementation Survey Team</p> <ul style="list-style-type: none"> -L. Mr. Kazumitsu Yonekawa - Mr. Hiroyuki Tachikawa - Mr. Takeaki Urao - Mr. Ryoosuke Matsui - Mr. Ipppei Hattori 		<p>10/30-11/19</p>	<p>2/17-2/25</p>

Dispatch of Japanese Evaluation Team

Calendar Year	1985	1986	1987
<p>The Mutual Consultation Team</p> <ul style="list-style-type: none"> -L. Mr. Minoru Tamiya - Mr. Yuichi Kishi - Mr. Shigeo Kajima - Mr. Arata Okubo - Mr. Senichi Kimura 	<p>↔ 2/14-2/21</p>		
<p>Technical Guidance Team</p> <ul style="list-style-type: none"> -L. Mr. Satsuo Nagata - Mr. Shohei Otsuka - Mr. Satoishi Yuda - Mr. Sen-ichi Kimura - Dr. Akio Nakajima 	<p>↔ 11/13-11/20</p>		

Dispatch of Japanese Evaluation Team

Calendar Year	1985	1986	1987
<p>Mutual Consultation Team</p> <ul style="list-style-type: none"> -L. Mr. Satsuo Nagata - Mr. Shuji Tannai - Mr. Akira Kaga - Dr. Akio Nakajima - Miss Tomoko Wada <p>Advisory Survey Team</p> <ul style="list-style-type: none"> -L. Mr. Hidetoshi Yaoi - Dr. Akio Nakajima - Mr. Tooru Ishigawa - Mr. Isutoma Yagi - Mr. Hiroshi Isaki 		<p>12/13-12/21</p>	<p>11/25-12/3</p>

3. Summary of the project

The summarized record of implementation of the technical cooperation program is described below.

Chronological Review of the Project :

Important matters of the discussion agreed upon.

The Evaluation Team

3.1 Dispatching of the Japanese Mutual Consultation Team.

(14-21 February 1985)

- Assignment of Thai counterpart personnel and staff for the IRC.
- Construction and procurement of facilities under the responsibility of the Thai Government.
- Maintenance of work preparation and vocational training equipment.
- Amendment of Labour law.
- Dispatching of Japanese short-term Experts.
- Training of Thai counterpart personnel in Japan.

3.2 Dispatching of the Japanese Technical Guidance Team

(13-20 November 1985)

- Collecting the medical information and the system of screening the applicants on medical aspect should be improved.
- Assignment of a medical doctor and an officer for adjusting and repairing prosthesis and orthosis.
- Extension of training duration in Work Preparation Program.
- IRC should continue its effort to increase the number of clients.

3.3 Dispatching of the Japanese Mutual Consultation Team
(13-21 December 1986)

- Improvement of Medical Rehabilitation services at the IRC regarding plan for improving the techniques of prosthesis and orthosis.
- Reorganization of Vocational Rehabilitation Program.

3.4 Dispatching of the Japanese Advisory Survey Team

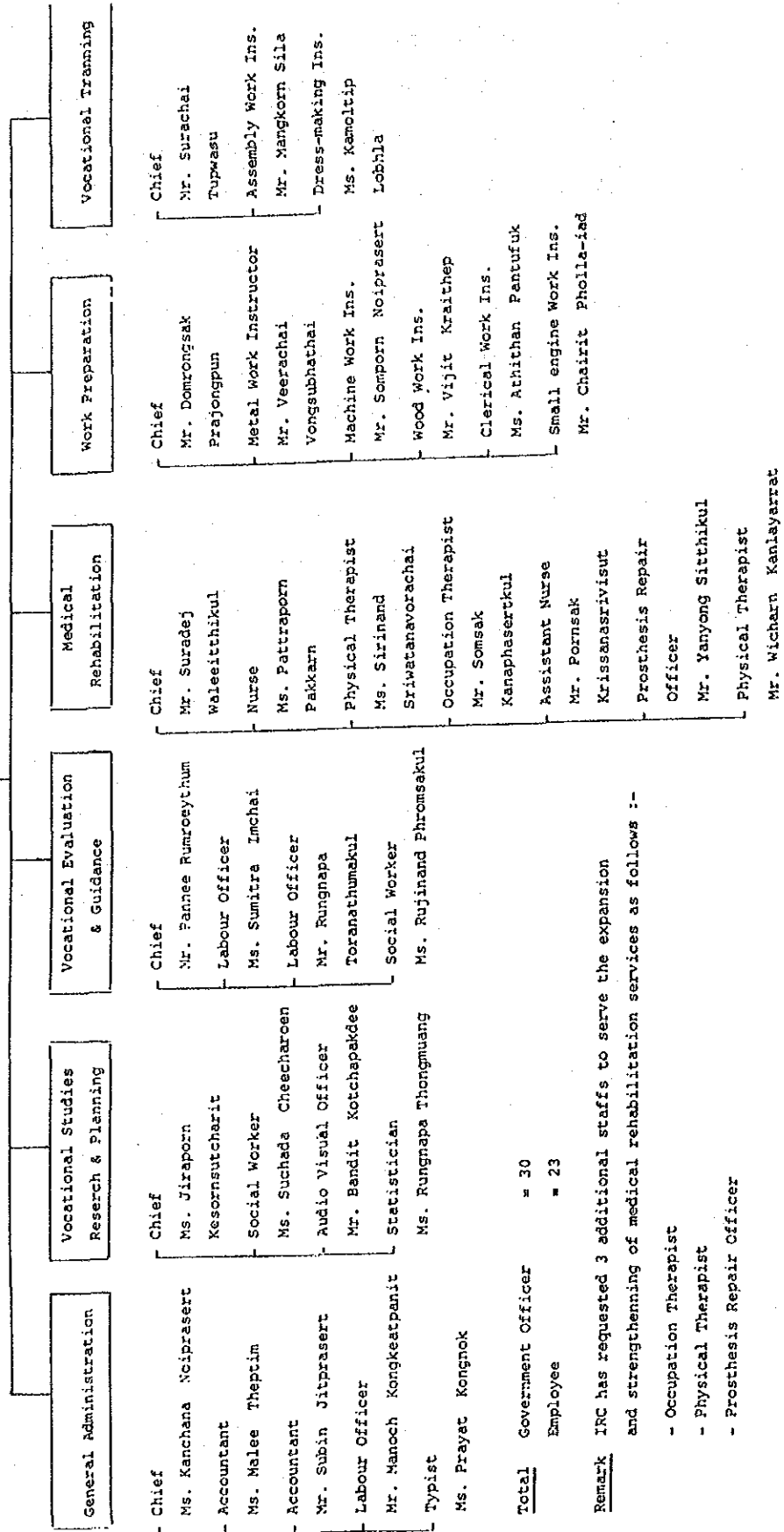
(25 November-3 December 2530)

- Dispatching of a Japanese long-term Expert in Physical Therapy and plan for improving the techniques of fabrication prosthesis and orthosis.
- Vocational guidance and evaluation of reorganization of vocational rehabilitation program.

Organization Chart of IRC

Director of IRC

Ms. Doungkomol Changrien



Total Government Officer = 30
Employee = 23

Remark IRC has requested 3 additional staffs to serve the expansion and strengthening of medical rehabilitation services as follows :-

- Occupation Therapist
- Physical Therapist
- Prosthesis Repair Officer

General Administration	Vocational Studies Research & Planning	Vocational Evaluation & Guidance	Medical Rehabilitation	Work Preparation	Vocational Training
House Keeper Ms. Viree Kumpun Laundryman Ms. Saiyon Sipatsa Ms. Pranee Reumpuk Driver Mr. Somvong Jernhom Mr. Samreng Sukkamnerd Guard Mr. Sunun Kwansuk Mr. Sungvien Sriboonpheng Mr. Sompong Promma Mr. Somneuk Ployphet Mr. Sumit Tongkhakhum Labourer Mr. Phanom Kamsuwan Mr. Tip Kongka				Assistant Instructor for Machine Work Mr. Parinya Yudee Metal Work Mr. Chamlong Oanpradit Wood Work Mr. Somneuk Singtotong Small Engine Mr. Wiroch Sirorungsi Mr. Paitoon Sombatmee	Assistant Ins. for Dress-making Ms. Sumalee Tironakul Ms. Apinya Kittijit Electric Mr. Chalit Chinassai Refrigeration & Aircondition Mr. A-wut Sanguanpaiboon Electronic Mr. Sawat
					Sepmngkonlert Mr. Suchai Korcharoenrat

Thai Operational Budget

Document No.3

Item	Thai Fiscal Year					Total
	1985	1986	1987	1988	1989	
1. Wages and salaries	802,077.29	1,388,768.51	1,822,727.90	2,163,545.67	6,177,119.37	
2. Wages for Temporary employee	53,100.-	53,100.-	53,100.-	53,100.-	212,400.-	
3. Allowances and material	1,263,984.93	1,883,724.58	2,391,595.26	2,124,921.43	7,664,226.20	
4. Charges for water and electricity	159,443.31	374,300.-	429,676.97	425,968.26	1,388,388.54	
5. Office furnitures	626,370.-	209,400.-	20,400.-	5,645.-	861,815.-	
6. Land and construction	-	853,000.-	669,000.-	669,000.-	2,191,000.-	
IRC	2,903,975.53	4,762,293.09	5,386,500.13	5,442,180.36	18,494,949.11	
7. Counterpart Fund from DTEC	369,206.74	1,007,539.60	846,692.01	906,655.17	3,030,093.52	
8. Rehabilitation expense from WCF	-	312,059.-	593,460.-	630,018.-	1,535,537.-	
9. Rehabilitation expense from Kunakorn Foundation	-	96,401.-	199,411.-	71,518.-	367,330.-	
Total	3,273,182.27	6,178,292.69	7,026,063.14	6,950,371.53	23,427,909.63	

Note Thai Fiscal Year is from October 1-September 30.

Additional Thai Budget for Construction of IRC (from special fund)

- Land	29,000,000.-
- Leveling and Filling of Land	7,402,694.-
- Construction of Fence	1,460,000.-
- Installation of Electricity and Telephone	640,701.-
- IRC Staff house	8,212,000.-
	<hr/>
Total	46,715,395.-
Grand Total	<u>70,143,304.63</u>

Performing report of Planning and Research Section

No.	Activities	JAN.	FEB.	MAR.	APR.	MAY	JUN.	JUL.	AGU.	SEP.	OCT.	NOV.	DEC.	Remark
1.	<p><u>1985 (2528)</u></p> <p>Making pamphlet on IRC facilities and services (Thai & English) *</p>													<p>Distribute to employers & employees and provincial labour office</p> <p>* Cooperate with the experts.</p>
2.	<p>Overall preparation</p> <p>2.1 Set up the time schedule for IRC Activities *</p> <p>2.2 Design various form & manual for example : *</p> <p>: Application form</p> <p>: Bill of health</p> <p>: Physical check form</p> <p>: Manual of Interview and 1st evaluation</p> <p>: Rules and regulation</p> <p>: Trainee's uniform</p> <p>: Manual of orientation</p> <p>: etc.</p>													

No.	Activities	JAN.	FEB.	MAR.	APR.	MAY	JUN.	JUL.	AUG.	SEP.	OCT.	NOV.	DEC.	Remark
	2.3 Determine and clarify the qualification of applicants.													
	2.4 Set up the methods and procedures for admission.													
	2.5 Sending circular letter to disabled worker.													
	2.6 Enforcement of the Ministry of Interior's announcement concerning rehabilitation's expense.													
	2.7 First meeting of Screening Committee.													
	2.8 Visiting Companies.													
	2.9 Transfer from temporary office at DOL to the IRC.													
	2.10 First admission													
	2.11 Opening Ceremony													

No.	Activities	JAN.	FEB.	MAR.	APR.	MAY	JUN.	JUL.	AGU.	SEP.	OCT.	NOV.	DEC.	Remark
2.12	Establishment of Kunakorn Foundation.													
2.13	Training Thai counterpart in Japan.													* 4 persons in 1984 *
2.14	Request for supplementary equipment in 1985 Japanese fiscal year.													
2.15	Hand books distributed on Opening ceremony													
	<u>1986 (2529)</u>													
1.	IRC seminar*													
2.	IRC guide book. 1*													
3.	Making panel (16 pgs.)**													
4.	Making photo album													
5.	Survey on the trainees attitude toward the IRC's services.													

No.	Activities	JAN.	FEB.	MAR.	APR.	MAY	JUN.	JUL.	AGU.	SEP.	OCT.	NOV.	DEC.	Remark
6.	Follow-up (survey)													
	6.1 Employers' attitude toward the IRC's activities.													
	6.2 Employees' attitude (who finished from the IRC) toward the IRC's activities.													
	6.3 Lecture on IRC's activities for employer's representative in various provinces.													
	6.4 Reorganization of Work Preparation and Vocational Training Curriculum*													
	6.5 Training Thai counterpart in Japan.													

chief of general administration section
vocational evaluation & guidance
O.T.

assembly work
Seminar (Mrs. Suchada)
Japanese Language course
March 1987
May 1987

No.	Activities	JAN.	FEB.	MAR.	APR.	MAY	JUN.	JUL.	AUG.	SEP.	OCT.	NOV.	DEC.	Remark
	6.6 Request for supplementary equipment in 1986 Japanese fiscal year.													
	6.7 Working group assigned for study and find out the countermeasure for increasing the number of IRC's trainees.													
	<u>1987 (2530)</u>													
1.	The IRC annual report (May 1985 - Dec. 1986)													include in DOL annual report.
2.	Revision of the IRC pamphlet.													DOL budget (30,000 Copies)
3.	- IRC guide book 2 [*]													300 Copies.
	- Revision of IRC Hand book.													5,000 Copies.
4.	Poster [*]													5,000 Copies.
5.	IRC seminar [*]													300 Copies.
6.	Report on the IRC seminar													300 Copies.

No.	Activities	JAN	FEB	MAR	APR	MAY	JUN	JUL	AUG	SEP	OCT	NOV	DEC	Remark
7.	Joint workshop in "Improvement the technique of making prosthesis and orthosis"													
8.	Request for supplementary Equipment.													
9.	Training Thai Counterpart in Japan.													
														Instructor (metal work) 9 m Instructor (wood work) 9 m Audio visual officer 7 m Medical doctor 4 m Prothesist 9 m
10.	Coordinate with short term expert on Audio Visual. 10.1 Making video software, OHP film and slide film 10.2 Recommendation on making audio visual aids*													Mr. Takayuki YAGI (27 May - 24 June)

No.	Activities	JAN	FEB	MAR	APR	MAY	JUN	JUL	AUG	SEP	OCT	NOV	DEC	JAN	FEB	Remark
1.	1988 (2531) The IRC annual report (May 1985 - Dec. 1987)															
2.	Panel															
3.	Video for visitors and employers															
4.	Revise forms and work flow* (using those forms)															
5.	IRC's seminar*															
6.	Training Thai Counterpart in Japan.				Director (1 m)											
7.	Survey on the trainees' attitude toward the IRC's seminar.															
8.	Follow-up (Survey) 9.1 Employers' attitude toward the IRC's activities.															
9.	Employers' attitude (who finished form the IRC) toward the IRC's activities.															

No.	Activities	JAN	FEB	MAR	APR	MAY	JUN	JUL	AUG	SEP	OCT	NOV	DEC	Remark
10.	Request for supplementary equipment.													
11.	Research projects on the factors affecting the utilization of the IRC and the possibility of expanding IRC services to other vocational training courses.													
12.	Joint workshop in "Improvement the technique of making prosthesis and orthosis"													→ Jan. 1989

* Number of vistors in each year

1. 1985 (Fiscal year)	46 groups	457 persons.
	(Thai 412 persons foreigner	45 persons)
2. 1986	64 groups	824 persons.
	(Thai 703 persons foreigner	121 persons)
3. 1987	57 groups	2,392 persons.
	(Thai 2,370 persons foreigner	22 persons)
4. 1988	44 groups	1,470 persons
	(Thai 1,385 persons foreigner	85 persons)

IRC exhibition

- | | |
|---------|---|
| 1. 1985 | - Disabled day |
| | - Safety week |
| | - Red cross day |
| 2. 1986 | - Disabled day |
| | - Safety week |
| | - Red cross day |
| | - Seminar of safety inspectors |
| 3. 1987 | - Disabled day |
| | - Safety week |
| | - Red cross day |
| | - Tripatite seminar (accident prevention) |
| | - Skill labour competition day |
| | - Civil service day |
| | - May day |
| 4. 1988 | - May day |
| | - Siminar of Private hospital |
| | - Safety week |
| | - Disabled day |

Performing Report of Vocational Evaluation and Guidance Section

No.	Activities	JAN	FEB	MAR	APR	MAY	JUN	JUL	AUG	SEP	OCT	NOV	DEC	Remark
1.	1984 (2527) Mr. T. Harada (Expert on Vocational Evaluation) starts to work.													NOV. 86 Mr. T. Harada (6 NOV 1984-5 NOV 1986)
2.	Lecture idea and concept for rehabilitation.													
3.	Lecture background of many tests. (WAISTEST KORSTEST)													
4.	Recommend the method to make interview form, test form and counseling form.													FEB 85
5.	Mr. Y. Hosaka (Expert on Vocational Guidance) starts to work.													NOV 87 Mr. Y. Hosaka (6 NOV 1984-5 NOV 1987)
6.	Lecture idea and concept for employment.													
7.	Recommend the method to make vocational guidance form case-conference form and join to visit the employer.													APR 85

No.	Activities	Month												Remark			
		JAN	FEB	MAR	APR	MAY	JUN	JUL	AUG	SEP	OCT	NOV	DEC				
1985 (2528)																	
1.	Recommend the method to make interview form, test form and counseling form..																
2.	Starting evaluation of physical problem which got an accident and the problem of activities of daily living.																
3.	Starting interview disabled worker and basic test.																
4.	To teach method of testing and translation many test into Thai.																SEP 88
5.	Recommend the method to make vocational guidance form case-conference form and join to visit the employer.																
6.	To teach method of vocational guidance.																MAR 86

No.	Activities	JAN	FEB	MAR	APR	MAY	JUN	JUL	AUG	SEP	OCT	NOV	DEC	Remark
7.	Join to make case and recommend the method of vocational planning for disabled worker.													
8.	To teach method of analysis and to set rehabilitation plan.													APR 86
9.	Recommend the method to visit, to inform the employer to ask for cooperation to accept the employee back to work or change appropriated duty for the employee.													APR 86
10.	To teach the method of follow up for finished trainees.													MAY 86
11.	Interview													DEC 86
12.	Screening Committee													212 CASES
13.	Test													13 Times
14.	Counseling													53 CASES (185 times)
15.	Guidance													53 CASES (238 times)
16.	Visit employer													53 CASES (179 times)
17.	Finished trainees													45 CASES
														16 CASES

No.	Activities	JAN	FEB	MAR	APR	MAY	JUN	JUL	AUG	SEP	OCT	NOV	DEC	REMARK
	1986 (2529)													
1.	Interview disabled worker and basic test.													
2.	To teach method of testing and translation many test into Thai.													SEP 88
3.	Join to make case, and recommend the method of vocational planning for disabled worker.													
4.	To teach method of analysis and to set rehabilitation plan.													
5.	Recommend the method to visit, to inform the employer to ask for cooperation to accept the employee back to work or change appropriated duty for the employee.													
6.	To teach the method of follow up for finished trainees.													

No.	Activities	JAN	FEB	MAR	APR	MAY	JUN	JUL	AUG	SEP	OCT	NOV	DEC	Remark
7.	To teach some machine and tools in order to get useful information for guidance and is order to coordinate to vocational training section or work preparation section													
8.	Lecture technique of vocational guidance and counseling.													
9.	Improvement tests form.													
10.	To make vocational guidance handbook.													
11.	Improvement caseconference form													
12.	MR.Y.Ichiguro (Expert on Vocational Evaluation) starts to work.													
13.	To teach the method of counseling.													FEB 89 MR.Y.Ichiguro (22 OCT 1986-22 FEB 1988)
14.	Interview													269 CASES
15.	Screening Committee.													14 times
16.	Test													83 cases (289 times)

No.	Activities	JAN	FEB	MAR	APR	MAY	JUN	JUL	AUG	SEP	OCT	NOV	DEC	Remark
17.	Counseling													83 CASES (299 times)
18.	Guidance													83 CASES (249 times)
19.	Visit employer													61 CASES
20.	Finished trainees.													72 CASES

No.	Activities	JAN	FEB	MAR	APR	MAY	JUN	JUL	AUG	SEP	OCT	NOV	DEC	Remark
	1987 (2530)													
1-	Interview disabled worker and basic test.													SEP 88
2.	Lecture technique of vocational guidance and counseling.													
3.	To make follow up handbook.													
4.	Lecture basic of knowledge for rehabilitation in Japan.													
5.	To make vocational rehabilitation handbook.													
6.	Improvement case conference form .													
7.	Lecture wrk sample test.													SEP 88
8.	Examine vocational evaluation work in Thai Style.													SEP 88
9.	Interview													320 CASES
10.	Screening Committee													15 times
11.	Test													120 CASES (386 times)
12.	Counseling													120 CASES (422 times)

No.	Activities	JAN	FEB	MAR	APR	MAY	JUN	JUL	AUG	SEP	OCT	NOV	DEC	Remark
13.	Guidance													
14.	Visit employer													120 CASES (400 times)
15.	Finished trainees													46 CASES
														119 CASES

No.	Activities	JAN	FEB	MAR	APR	MAY	JUN	JUL	AUG	SEP	OCT	NOV	DEC	Remark
	1988 (2531)													
1.	Interview disabled worker and basic test									↑				
2.	To make vocational rehabilitation handbook.									↑				
3.	Lecture work sample test.									↑				
4.	Examine vocational evaluation work in Their Style.									↑				
5.	Interview									↑				270 CASES
6.	Screening Committee									↑				9 times
7.	Test									↑				132 CASES (406 times)
8.	Counseling									↑				132 CASES (310 times)
9.	Guidance									↑				132 CASES (456 times)
10.	Visit employer									↑				50 CASES
11.	Finished trainees									↑				60 CASES

Performing Report of Medical Section

No.	Activities	JAN	FEB	MAR	APR	MAY	JUN	JUL	AUG	SEP	OCT	NOV	DEC	Remark
1.	1984 (2527) Making form - MMT* - ROMT* - ADLT* - SENSORY T* - Interview medical check list - OT Case Record + Progress Note - PT Case Record + Progress Note													Expert on Occupational Therapy Mr. Kawabata Kenji (3 Oct. 1984 - 2 Oct. 1987) * Advise, Assist by Expert

No.	Activities	JAN	FEB	MAR	APR	MAY	JUN	JUL	AUG	SEP	OCT	NOV	DEC	Remark
1.	1985 (2528) Making form - Doctor + Nurse Case Record - Prescription form for Amputee*													* Advise, Assist by Expert
2.	Co-operating with Public health ministry and hostel - Set up Equipment - Work Place - Referral System - Service System													
3	Therapeutic Activities - Leather Craft* - Weaving* - Paper Craft* - Wood Craft* - Tail Mosaic* - Metal*													- Technique Adapted by OT and Expert on OT

No.	Activities	JAN	FEB	MAR	APR	MAY	JUN	JUL	AUG	SEP	OCT	NOV	DEC	Remark
4.	Amputee Training System* - Stump Training - Preprosthetic Training - Prosthetic Check out - Prosthetic Training													* Advise, Assist by Expert - Bandaging Technique - Training Technique
5.	Temporary Prosthetic Service* - AE Prosthesis - BE Prosthesis													- Various kind of material - Advantage and disadvantage
6.	Self Help + Aid Device*													
7.	Prosthetic Maintenance and Repair													- To use & Maintenance Equipment
8.	Therapeutic Technics*													- Concept of Technique; Discussion

No.	Activities	JAN	FEB	MAR	APR	MAY	JUN	JUL	AUG	SEP	OCT	NOV	DEC	Remark
	1986 (2529)													
1.	Adjustment Technique*													* Advise, Assist by expert
	Of Artificial LEG													Expert on Physical Therapy
2.	Gait Training*													Mr. Minaru Kayano
3.	Making Splint*													(26 Apr - 24 May)
4.	Medical Textbooks													- Gait Analysis
5.	Therapeutic Activity*													- Training Technique
	- Short Wave Diathermy													- Dynamic Alignment Checkout Technique
	- Micro Wave Diathermy													- Splint Sample Made by Expert
	- Ultrasonic Diathermy													

No.	Activities	JAN	FEB	MAR	APR	MAY	JUN	JUL	AUG	SEP	OCT	NOV	DEC	Remark
1.	1987 (2530) Making form - Medical Case Record - Referral sheet - Prosthesis Checkout form* Prosthetic - Fabrication* Prosthesis Checkout and Training* - AK EMG Biofeed Back* Exercise Program* - For Fracture - Post Reconstructive Operation - Contracture Hand													* Advise, Assist by expert Expert on Prosthesis Mr. Toshimi Nishio (12 May - 7 Aug) Expert on Physical Therapy Mrs. Tamiko Nishimura (20 Jun - 19 Jul) - Introduced New Material - Taught how to fabricate Various Type of Prosthesis Medical Doctor Specialists Dr. Akio Nakajima (6 Jul - 20 Jul) Dr. Takashi Aoyama (6 Jul - 24 Jul) -Dr. Gave Lecture and Introduced New Technique of Prosthesis New Expert on Occupational Therapy Mr. Issa Hira (26 Sep '87 - 22 Feb '89)
2.														
3.														
4.														
5.														
6.	Endoskeletal (Modular) Prosthesis*													
7.	General Medical Care													

No.	Activities	JAN	FEB	MAR	APR	MAY	JUN	JUL	AUG	SEP	OCT	NOV	DEC	Remark
	1988 (2531)													
1.	Sensory Evaluation and Re-education													* Advise, Assist by expert
2.	Goniometric Biofeedback*													-Sample Equipment made by Expert on OT
3.	Educational Program													-Expert on Physical Therapy
	- Back pain													Mr. Masao Mirase
	- Accident													(23 Feb. 1988 - 22 Feb. 1989)
4.	Medical Case Conference													
5.	Amputee Clinic													
6.	Journal Club and Topic Presentation*													
7.	Research (set up)*													Some Topics Present by Expert on PT
	- Grasp and pinch power													
	- Sensibility of hand													
8.	Prosthesis Fabrication													

PERFORMING REPORT OF WORK PREPARATION SECTION

NO.	ACTIVITIES	JAN	FEB	MAR	APR	MAY	JUN	JUL	AUG	SEP	OCT	NOV	DEC	REMARK
1.	<p>YEAR 1984 (2527)</p> <p>PREPARATION</p> <p>1 1 PROCEDURE PLAN AND STEPS</p> <p>1 2 TO TRANSLATE VARIOUS KINDS OF FORMS AND INCLUDE DOCUMENT TO FORM THE TRAINING ITEMS</p>													<p>*CO. OPERATING WITH THE EXPERT (MR. TAJIO NSFO)</p>

PERFORMING REPORT OF WORK PREPARATION SECTION

NO.	ACTIVITIES	JAN	FEB	MAR	APR	MAY	JUN	JUL	AUG	SEP	OCT	NOV	DEC	REMARK
1	<p>YEAR 1985 (2522) CURRICULUM PREPARATION</p> <p>1.1 *TO FORM CURRICULUM OF 6 COURSES TRAINING PROGRAM. STRUCTURE AND CONTENT OF CURRICULUM</p> <p>1.2 TO FORM TEST OF WORK AND QUESTIONNAIRES ABOUT THE OPINION FOR TEST OF WORK</p> <p>1.3 TO PREPARE DOCUMENT MATERIALS AND TOOLS</p> <p>1.4 TO PREPARE THE TRAINING PAPERS AND JOB SHEET</p>													*CO OPERATING WITH THE EXPERT
2	*TO INSPECT MATERIALS AND INSTALLATION OF MACHINE AND EQUIPMENT FROM JAPAN													
3	OPEN THE WORK PREPARATION COURSES WOOD WORK COURSE METAL WORK COURSE ASSEMBLY WORK COURSE													

PERFORMING REPORT OF WORK PREPARATION SECTION

NO.	ACTIVITIES	MONTHS												REMARKS			
		JAN	FEB	MAR	APR	MAY	JUN	JUL	AUG	SEP	OCT	NOV	DEC				
	YEAR 1985 (2528) CLERICAL WORK COURSE																
	MACHINE WORK COURSE																
	HANDICRAFT WORK COURSE																
4	MAKING THE TRAINING AID																
5	THE EXPERT FOR A SHORT TIME OPERATING ON WOOD WORK CO-OPERATE WITH THE INSTRUCTOR OF WOOD WORK																

PERFORMING REPORT OF WORK PREPARATION SECTION

NO.	ACTIVITIES	JAN	FEB	MAR	APR	MAY	JUN	JUL	AUG	SEP	OCT	NOV	DEC	REMARK
*1	<p>YEAR 1986 (2529) TRAINING CURRICULUM</p> <p>1.1 TO IMPROVE CURRICULUM OF WOOD WORK</p> <p>1.2 TO CHANGE TRAINING DURATION TO A PERIOD</p> <p>1.3 TO DIVIDE WORK PREPARATION INTO 3 COURSES (MODULAR SYSTEM) AND FORM THE SERIES OF TEXT BOOK (MODULAR SYSTEM)</p>													<p>*CO OPERATING WITH THE EXPERT (MR. YUTAKA ITO BEGIN HIS WORK ON 22 OCT 86)</p>
2	MAKING A MONTHLY REPORT													
3	MAKING THE TRAINING AID													
4	TO RECEIVE PRACTICE HAND BOOK FROM THE EXPERT TO BE AN EXAMPLE FOR JOB SHEET													
5	TO FORM JOB SHEET FOR TRAINING AND IMPROVE FORM FOR TEST OF WORK													
*6	TO CONSIDER THE PURCHASE OF MATERIALS AND HARDWARE (JAPANESE EDITION)													

PERFORMING REPORT OF WORK PREPARATION SECTION

NO.	ACTIVITIES	JAN	FEB	MAR	APR	MAY	JUN	JUL	AUG	SEP	OCT	NOV	DEC	REMARK
7	<p><u>YEAR 1986 (2529)</u> TRAINING ON THE WORK PREPARATION COURSES WOOD WORK COURSE METAL WORK COURSE ASSEMBLY WORK COURSE CERICAL WORK COURSE MACHINE WORK COURSE HANDICRAFT WORK COURSE</p>													

PERFORMING REPORT OF WORK PREPARATION SECTION

NO.	ACTIVITIES	JAN	FEB	MAR	APR	MAY	JUN	JUL	AUG	SEP	OCT	NOV	DEC	REMARK
1	<p>YEAR 1987 (2530) NEW CURRICULUM ADAPTION</p> <p>1.1 SPECIFY CONTENTS</p> <p>1.2 LIMIT WORK PREPARATION REHABILITATION EXPENSE</p> <p>1.3 TO RE FORK CURRICULUM (TRAINING ITEM DURATION AND CODE NUMBER)</p> <p>1.4 TO FORM THE TRAINING RECORD OF PROGRES</p>													
2	MAKING A MONTHLY REPORT													
3	MAKING THE TRAINING AID.													
4	TRAINING ON THE WORK PREPARATION 6 COURSES													

PERFORMING REPORT OF WORK PREPARATION SECTION

NO.	ACTIVITIES	JAN	FEB	MAR	APR	MAY	JUN	JUL	AUG	SEP	OCT	NOV	DEC	REMARKS
1.	<u>YEAR 1988 (2531)</u> TO CONSIDER THE PURCHASE OF MATERIALS AND HARD WARE													
2.	MAKING THE TRAINING AID													
3.	MAKING A MONTHLY REPORT													
4.	TO INSPECT MATERIALS AND INSTALLATION OF MACHINE AND EQUIPMENT (JAPANESE GOVERNMENT'S BUDGET)													
5.	TRAINING ON THE WORK PREPARATION 6 COURSES													